

平成 14 年度

大分大学  
大学教育開発支援センター

報告書

大分大学大学教育開発支援センター

## は じ め に

大分大学大学教育開発支援センター

センター長 豊田 寛三

大分大学大学教育開発支援センターは、本学の理念・目標に基づき、本学における教育活動の在り方を総合的に探求し、学内緒組織や学外関係機関と連携しながら、高度で個性的な教育の実現を支援することを目的として、平成13年2月、学内措置によって設置されました。

センターでは、各学部から選出された運営委員による運営委員会の下に①教養教育の見直しプロジェクト、②メディア教育プロジェクト、③FD支援プロジェクト、④学生による授業評価プロジェクトを立ち上げ、プロジェクト研究員の皆様によって精力的な調査・研究・実践が行われています。ある意味では、本学における教育改善のための中心的機関としての役割を果たしています。

本報告書は平成14年度のセンターの活動の概要を示すものです。熟読し、大学における教育活動活性化の資として活用されることを切に要望したいと思います。本報告書とは別に、支援要請を受けた教務協議会から「平成14年度 FD報告書」も刊行されることとなっています。そこでは、従来からの研修会等の開催・派遣のほか、2年目を迎えた合宿研修によるワークショップ、本年度から取り組まれた授業構成技術等の向上のためのワークショップ、教養教育授業公開ワークショップなどの概要が報告されています。また前年度に実施された授業改善のための「学生による授業評価アンケート調査 報告書」も刊行されています。

これもひとえに、川寄センターチーム、運営委員会委員の先生方、各プロジェクト員の努力の積み重ねによるものだと思います。ここに深甚の謝意を表します。

しかし、こうした成果が、全学的な組織としての「活動」と評価するには、いささか問題があります。それは、何よりもセンターは、学内措置により設置された組織であり、独自のスタッフを一切持たず、さらに自らの「活動」ではなく、他の組織等からの「支援要請」に基いて初めて活動できるというシステムにあります。例えば、学生による授業評価結果の活用については、現在は個々の教員の善意に任されており、組織としての取組みは不十分なものです。

大学の存在意義が根本的に問いただされている今日にあって、本センターの存在意義はますます高まると思います。センターのあり方について、学内の多くの方のご意見を期待します。

平成15年3月



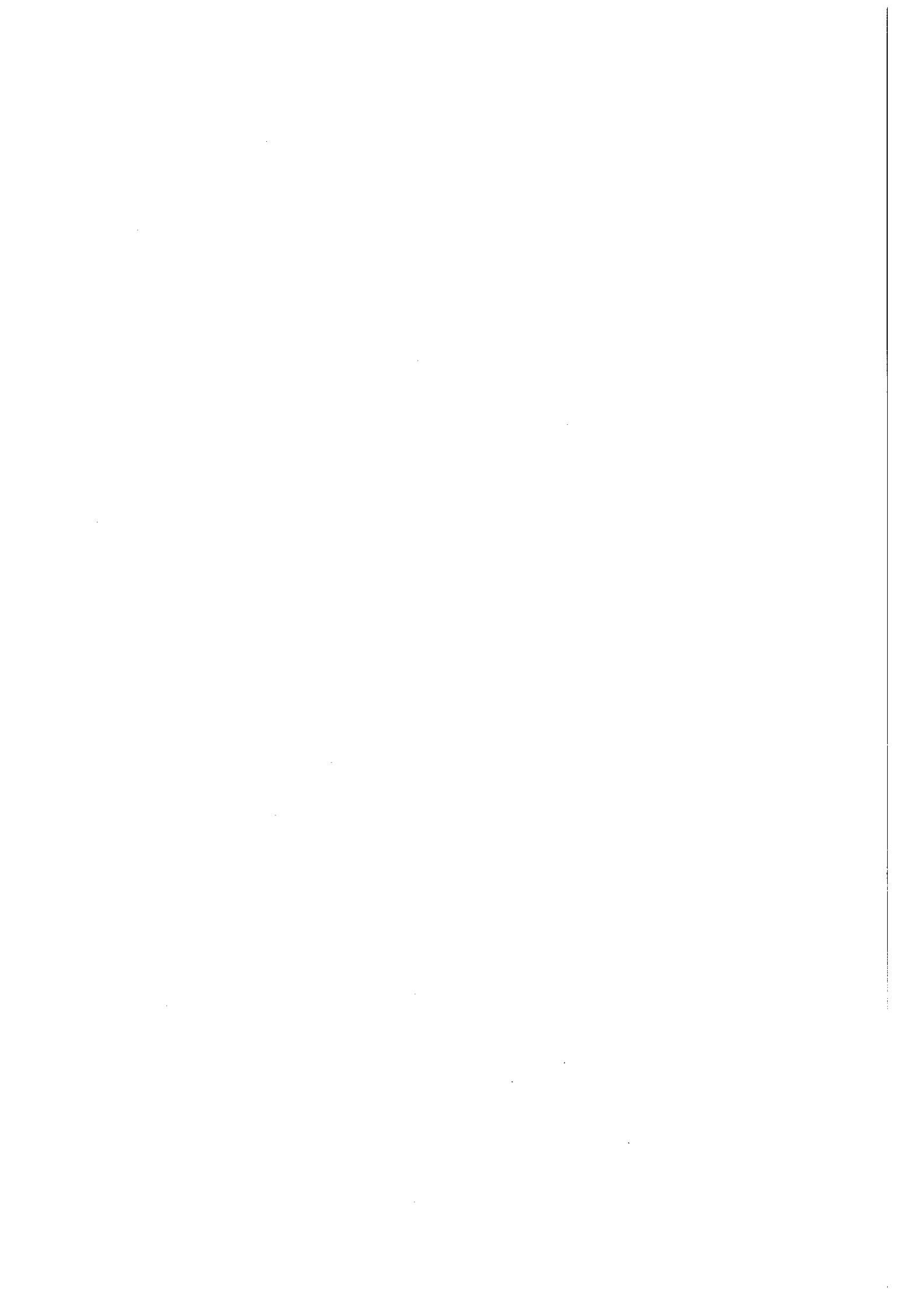
# 目 次

## はじめに

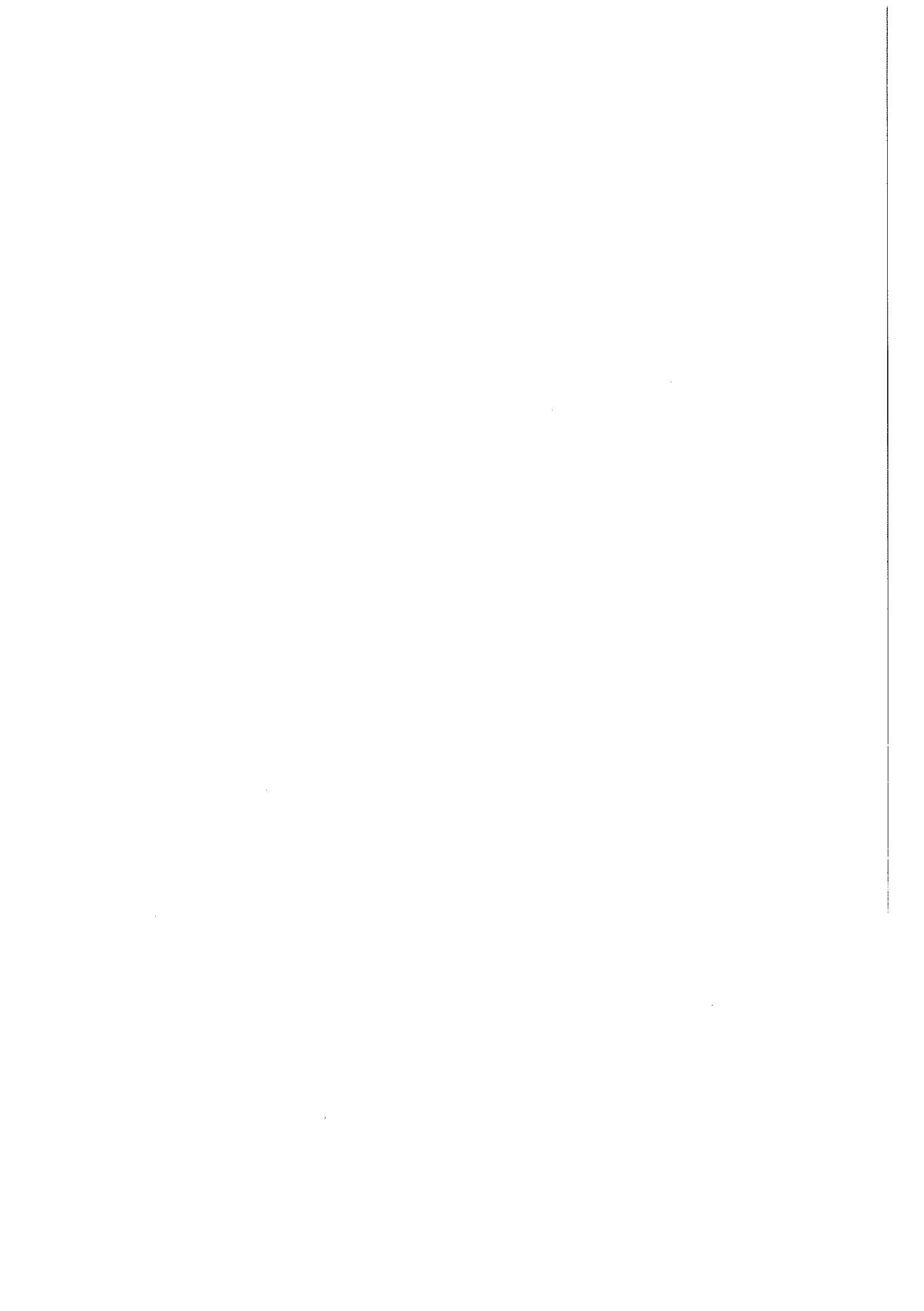
|                     |    |
|---------------------|----|
| I プロジェクト活動          |    |
| i. 教養教育見直しプロジェクト    | 1  |
| ii. メディア教育プロジェクト    | 3  |
| iii. FD支援プロジェクト     | 17 |
| iv. 学生による授業評価プロジェクト | 23 |
| II 広報委員会            | 37 |
| III 資料              |    |
| i. センター運営委員会議事概要    | 41 |
| ii. センター関係諸規則       | 47 |
| 大学教育開発支援センター運営委員名簿  | 51 |



## I プロジェクト活動



## i . 教養教育見直しプロジェクト



## **教養教育見直しプロジェクト**

### **1. プロジェクト活動の目的**

教養教育協議会における本学の教養教育の見直しを支援する。他大学の教養教育改革の情報を収集・分析するとともに、本学の教育理念・目標に適する教養教育カリキュラム(案)を作成する。

### **2. プロジェクト研究員**

豊田寛三（センター長、責任者）

薛 進軍（一般教養科目・人文分野、経済学部）

井田知也（一般教養科目・社会分野、経済学部）

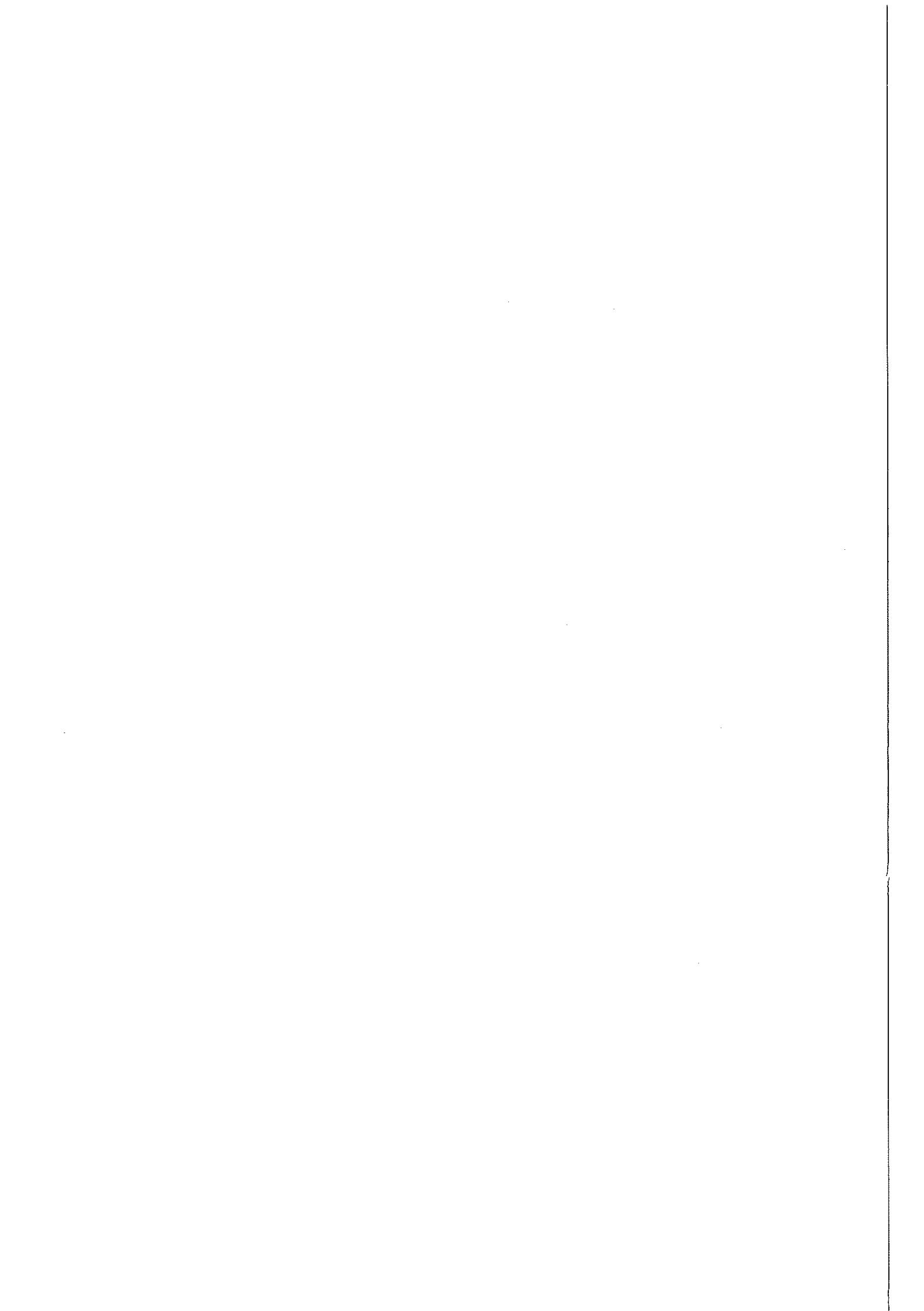
大賀 恭（一般教養科目・自然分野、工学部）

稻用茂夫（外国語科目、教育福祉科学部）

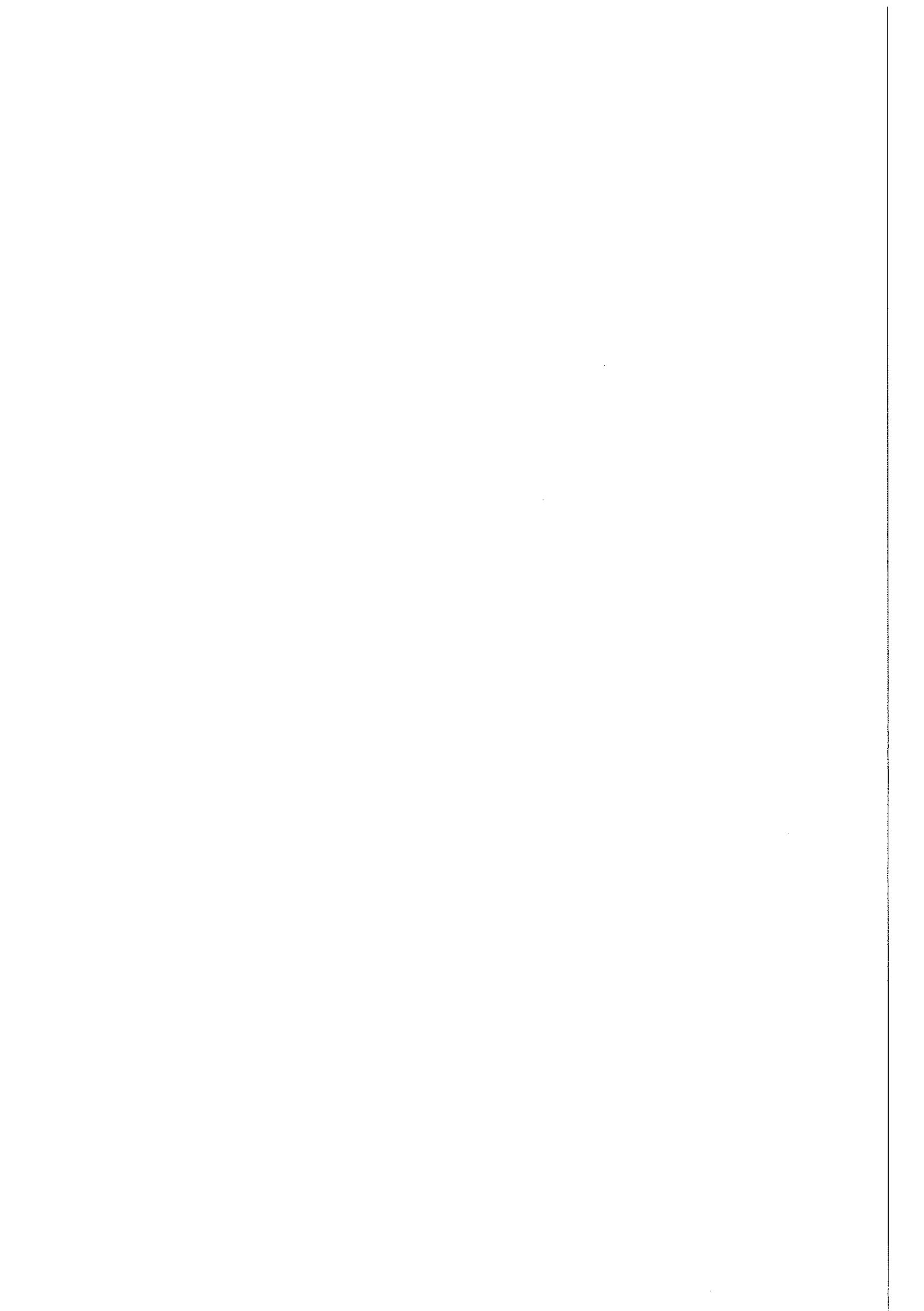
谷口勇一（身体・スポーツ科学科目、教育福祉科学部）

### **3. 活動報告および今後のプロジェクト活動**

本プロジェクトの本年度活動記録はない。今後、大学評価学位授与機構による本学教養教育の評価の確定、および統合による教養教育の実施・運営についてのプロジェクト研究が必要である。



## ii. メディア教育プロジェクト



## メディア教育プロジェクト

### 1 プロジェクト活動の目的

本学におけるメディア教育の推進のために具体的な研究支援を行う。

### 2 プロジェクト研究員

山下 茂 (教育福祉科学部 責任者)

藤井 弘也 (教育福祉科学部)

西本 靖弘 (経済学部)

松隈 久昭 (経済学部)

岩本 光生 (工学部)

二村 祥一 (工学部)

〈専門領域〉

(地域連携) 岡田 正彦 (生涯学習教育研究センター)

(V O D) 大岩 幸太郎 (教育福祉科学部)

(ネットワーク) 吉田 和幸 (情報処理センター)

### 3 活動報告

#### 3-1 今年度の活動計画

本年度のプロジェクトの重点として、「ネットワークを利用した教育環境の在り方」(ネットワーク型授業、ネットワーク型学習)の実践・調査をおこなうことを目指した。そこでFDプロジェクトと共同した企画も実施することにした。授業におけるマルチメディアの活用を知ってもらうことや、従来型の方法のほかにネット型の授業方法(e-Learning)を理解してもらう内容の計画をたてた。また学習環境としては、学習効果を高めることや、学習時間の多様化に応じるためにもメディア活用による自学する環境の整備がいそがれる。これについては、特に今年度が総合情報処理センターの機種更新に当たり、教養教育から語学学習のマルチメディア環境が要望された。

SCSについては利用促進・定着につながる検討を行うこととした。

今年度の計画として以下のようない企画を立てた。

(1) メディアの授業等への活用とFDの検討

- ・FDプロジェクトと協議(前期:5月)
- ・VOD等マルチメディアの授業への活用

基本的な実践技術の習得と授業方法の研修プログラム（後期 11 月）

－Web を活用した教育・学習環境開発ワークショップ－

- ・Web を活用した授業実践の講演会を予定

(2) 遠隔教育

- ・医科大学との単位互換の大学間共同授業（遠隔授業）の調査研究

現在の回線で利用可能なビデオ映像のライブ配信を調査

回線の更新ごとに利用可能な技術を調査

- ・学内マルチメディアネットワークの活用

SCS 受信プログラム（『いま、教育を考える』5月31日、6月1日）において、  
学内マルチメディアネットワークによる学内への同時配信（教育福祉科学部100号  
教室）を実験

- ・新しいメディアを使った授業の実践

実験用ギガビット回線を利用した DVTS による集中講義（教育福祉科学部大岩  
教授）

- ・SCS 大分大学発の授業

他大学教員の授業受信だけでなく、本学教員による授業実践を試みる

H14 年度後期での計画を検討

(3) SCS

- ・SCS 受信プログラム

『いま、教育を考える』（岐阜大学創立記念 第2回岐阜シンポジウム）

5月31日、6月1日

(4) 国際交流

- ・時差なしで行えるメディア交流（学生交流だけでなく、授業交流も目指す）

韓国の交流協定校との教育分野のコラボレーションのため調査及び予備実験

(5) 地域への貢献

- ・大分県ハイパーネットワークとの連携によるテレビ会議の利用実験

生涯学習教育研究センター：公開講座、研修講座の地域への配信（県南を予定）

(4), (5) については今年度実施できなかった。次年度には実施できるようにする。

### 3-2 会議記録

今年度は、集まって行う会議は最初の1回のみであった。そのほかの検討、審議事項について、その都度、電子メールを使って意見交換を行った。

#### 第1回メディア教育プロジェクト会議

日時：2005年5月1日

場所：教育福祉科学部第2会議室

- 議題
1. H13年度報告書
  2. プロジェクト経費申請
  3. 今年度プロジェクトの検討
  4. その他

### 3-3 活動成果

#### (1) SCSへの取り組み

SCSの利用状況としては、授業等での利用が少なくなかなか積極的な活用には至っていない。SCSのプログラムには、授業等にも活用できるものが多く見受けられるので、今後、これらの活用に向けて積極的にメディア教育プロジェクトが、関連する組織に働きがけする用にしていくことが必要である。

本学のこれまでのSCSへの取り組みを評価されて、メディア教育センターから研修会の講師依頼があり、山下が千葉にあるセンター本部での研修事業に参加した。下記に概要を記す（資料参照）。この研修には、藤井、岩本委員がサポートの形でSCSを使い大分から参加した。また大分医科大からもSCSルームに3名の参加者があり、交流も行った。

#### —メディア教育開発センター研修事業—

##### 新しい時代の大学授業の形態

###### 3. ワークショップ　—テレビ会議システム活用の授業を進めるために—

平成8年にSCS（Space Collaboration System：衛星通信大学間ネットワーク）が開始されて以来、SCSをはじめとするテレビ会議システムを設置した大学が増えています。このシステムを使うことで、遠隔地の大学間での授業交流、あるいは複数キャンパスを持つ大学では多様な、かつ効果的な学習機会の提供等が容易になります。学生と教師にとって教授・学習機会の拡大、授業改善の場ともなり得ます。しかし、テレビ会議システムを日常的な教育の場で活用することには、疑問と抵抗感も決して少なくありません。このシステムを活用して、効果的な遠隔双方向授業をするにはどうすればいいかを、皆で考えてみませんか？　今回初めて参加される方はもちろん、昨年度参加された方も歓迎します。

---

##### 実施要項

■主 催 文部科学省大学共同利用機関 メディア教育開発センター

■対 象 (1) SCSなどのテレビ会議システムを使った双方向授業を、これから、またはこれからも、実践してみようと考えている教員  
(2) テレビ会議システムの活用に関心のある高等教育関係者

■期 日 平成14年7月8日(月)

#### (2) 医科大との接続実験の検討

6月、今後のネットワーク設備の状況について情報収集し、遠隔授業のシステムについて医科大側の関係者と情報交換した。その後、医科大学からのH15年度概算要求が今年度の補正予算でつき、統合後を想定して設置作業に取り組んだ。これには藤井委員が参加し、遠隔講義、学習支援システムを検討している。(6)の項でも述べる。

### (3) 医科大学のメディア教育関連施設の見学

7月、大分医科大学映像情報部門の吉田氏から、医科大におけるマルチメディア活用の現状の紹介があり、山下、藤井委員で施設の訪問を行った。この施設は、映像メディア、音声、画像メディア等の高性能な機器が充実しており、医学研究、臨床研究、医学教育に活用されていた。

今後、統合後全学の施設との連携で、大学教育への支援に利用拡大や有効な支援、運用の検討をしておく必要がある。

### (4) 遠隔授業への参加

教育福祉科学部で9月24日から実施された集中講義において、Gigabit ネットワークを使った試みが行われた。非常に鮮明な映像、音声で、大学間の回線が Gigabit クラスの広帯域が普及してくると、遠隔講義等では非常に有効な手段となることがわかった。本学において、特に統合後の教養教育等に向けて実用化に取り組みを始めた。

今回の実施における詳細を報告する。

物理的媒体：Gigabit ネットワーク

インターネットプロトコル：IPv6

使用コーデック：DVTS (WideProject)

使用帯域：送受信各 35Mbps

使用機材：送受信用 PC 各 1 台、スピーカー、プロジェクター 1 台、スクリーン、ギガビットスイッチ

授業：佐賀大学の渡辺氏による「マルチメディア情報処理」を、集中講義形式で実施した。4 日間の期間のうち、後半 2 日間を遠隔講義形式で行った。

実施教室：教育福祉科学部 300 号教室

受講者人数：23 名

※詳しい授業の様子などは、資料に写真を添付してある。

### (5) FD プロジェクトと共にによる FD ワークショップ報告

授業において教材や資料の提示には、OHP から PC による方法へ移行してきている。板書さえもあらかじめ用意されたコンテンツを PC によって提示されている。今後ますますこの授業方法は普及していくものと思われる。

現在総合情報処理センターで進められている授業支援環境の整備ができると、上述のようなコンテンツが学生の学習支援に役立ってくる。

このような状況を考慮して、下記のような 2 つのテーマについて FD ワークショッププログラムを実施した。

H14 年 10 月・・・「ホームページ作成」(生涯学習教育研究センター共催)

11 月・・・「Web を活用した教育・学習環境開発」

各々のテーマ別に希望者を募集し、各 3 回実施した。各テーマにおける研修内容を報告する。

## ◆「ホームページ作成」

現在ではインターネット環境の整備に伴い、各家庭からもインターネットが利用できるようになってきている。日常的な調べものに、インターネットを活用することが多い。見ることになれてくると、次は自分で作って情報発信しようという欲求が生まれてくる。大学におけるホームページの活用法も連絡、情報提供と多岐にわたってきている。学生への学習支援や情報公開の促進という観点からも各自がホームページを作成する必要性がでてきている。そこで、高度なテクニックを使った表現豊かなホームページを簡単に作成する研修を、「ホームページビルダー」というアプリケーションソフトを使って行った。

### <ホームページ作成の基礎>

ホームページビルダーの基礎として、起動、終了法からはじめて、文字入力  
画像の挿入、表の挿入、ボタンの配置、リンクの挿入までを行った。

### <ホームページ作成のTips>

ホームページビルダーの持つ機能を使用したより表現豊かなホームページ  
成をおこなった。内容としては、ホームページの公開、フレーム、動きのある画像  
の挿入、効果の付加などをとりあげた。

基礎の部分は全員がたのしみながら学習し、その手軽さと表現力の豊かさに  
驚いていた。Tips のほうはネットワークの基礎的な知識が必要となり、やはり  
個人差がでてしまっていた。しかし、最後にはほとんどの受講者がホームページ  
作成に興味・関心と自分で作成できるという自信を示していた。今回の成果を教  
員は学科や自分のホームページの作成、事務職員は各職場のホームページ作成に  
活用している。

## ◆「Web を活用した教育・学習環境開発」

### <ビデオコンテンツの活用>

ビデオ映像が Web 環境から簡単に利用できるようになることは、教育的な面で  
効果が期待できる。教材資料としてのビデオ映像を、簡単にホームページから利用  
できる技術について研修した。

### <Web 環境でのデータベースの利用>

1回目 Web 環境を利用したインターラクティブなホームページ作成について実  
習した。マイクロソフトの ASP という、Web 対応のツールを作成するためのア  
プリケーション開発環境を使った。

2回目 前回の応用としてデータベース利用について実習した。これらの環境を  
作っていくことは、学生からの課題提出等の授業支援に利用が可能となる。

## (6) 学内メディア教育設備を充実させた活動

### ① 学内メディア教育環境の充実

総合情報処理センターでは、機種更新に当たり Web ベースの学習環境を構築するた  
めに WebCT を導入した。これは、教員が電子化された授業コンテンツや、受講生か  
らのレポートなどをネットワークを通して管理できるシステムである。このシステム  
は、学生への課題や授業の復習等に活用できるものであり、学生に対しての学習支援

をサポートするものである。

これは現在開発が進められている教務電算化と連携をとることが可能であろう。今後の課題である。

## ②医科大と統合後の教育環境の整備

大分医科大学が申請していた 15 年度概算が補正予算でつき、大分大学とのキャンパス間を接続する「キャンパス間接続システム」が、今年度の補正予算で認められた。この使用策定には、(1)との関連から藤井委員が参加し、メディア教育の部分については中心的に取り組んでもらった。大分大学と大分医科大学の現有しているシステムを活かすことも考慮しながら検討している。

メディア教育に関係する設備は、

- ・キャンパス間ネットワーク接続：8 Gbps
- ・遠隔授業システム：DVTS による双方向の接続

各大学の 1 教室に、2 スクリーンを置き、これに教員・学生の映像と、PC 画面あるいは書画カメラによる教材提示の映像を映し出す。

- ・VOD コンテンツ作成配信システム：WebCT と連携

## 4 今後の課題

SCS の利用拡大等の取り組みは、非常に難しい状況となっている。現在提供されているプログラムのなかで授業などへ取り込んでもらうなど、工夫するような広報活動が必要である。このために有効な方法を検討するように引き継ぎたい。また、大分大学の特色になっている福祉などの分野で、本学からの発信する講義とか、他大学と連携した講義を企画するなど、関連する組織と協議をしていくことを試みたい。

大分医科大学との統合が目の前にきている。教養教育などでの遠隔講義、学習など教育環境の整備が重要となってきている。来年度は、3-3 (6) で述べた充実してきたメディア教育環境の、具体的な活用に向けた活動が必要となってきた。ハードとしてのシステムはどこの大学でも構築可能であり、これが特色にはならない。しかし、魅力ある大学を維持していくためには、なくてはならない大学版インフラであろう。そして、今後の新生大分大学の特色ある教育を打ち出していくためには、これらの機能を活用した授業方法の開発や、大学教育に必要な、また大分大学特有のコンテンツの集積が重要なものになってくる。これらの観点からこのメディア教育プロジェクトは、FD と表裏一体として位置づけられる。FD との連携が重要である。また総合情報処理センター、生涯学習教育研究センターとの連携もますます必要となってきており、ともに課題の実施、解決に向けた取り組みを行っていくことを目指す。

---

## <資料>

### 1. メディア教育センターSCS研修事業

新しい時代の大学授業の形態

3. ワークショップ・テレビ会議システム活用の授業を進めるために-

平成14年7月8日(月)

日程・内容

日 程 研修内容 講 師

10:00 集合・受付

話題提供 I SCSによる遠隔集中講義 山下 茂(大分大学教授)

話題提供 II なぜビデオ・カンファレンスなのか?

-北海道教育大学の取組み 笹谷 春美(北海道教育大学教授)

話題提供 III バーチャル・キャンパス・システム(VCS)はなぜ使いにくいか?

こんなシステムを作りたいと欲しい 田切 美智雄(茨城大学教授)

話題提供 IV ビデオ・カンファレンスの活用

-イギリスの事例から-瀬田 智恵子(NIME 助教授)

14:00 参加者からの事例提供とディスカッション

「テレビ会議システムの効果的活用のために」参加者と話題提供者が共に、

(1) テレビ会議システムを活用した授業の実践経験に関して、または

(2) 今後活用したいと考えている授業の実践に関して経験も踏まえて意見交換をし、

(3) 積極的な活用のためにはどうしたらいいか、

について考え、今後の効果的な活用に向けての情報を共有する。

16:00 まとめの全体会

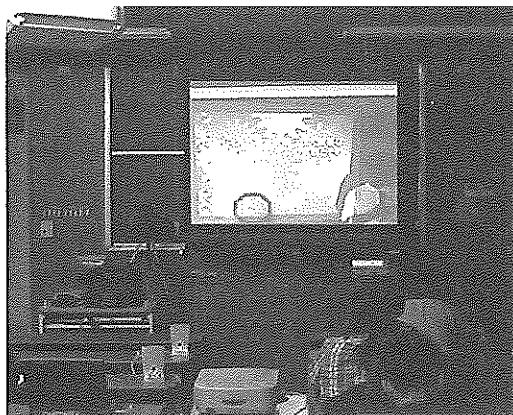
16:30 解散

## <参考>

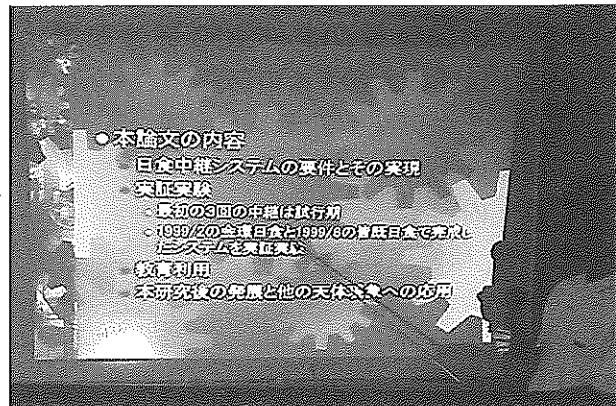
[http://www.nime.ac.jp/KENSYU/kensyu\\_h14/004\\_3/main.html](http://www.nime.ac.jp/KENSYU/kensyu_h14/004_3/main.html)

## 2. DVTS を用いた遠隔講義

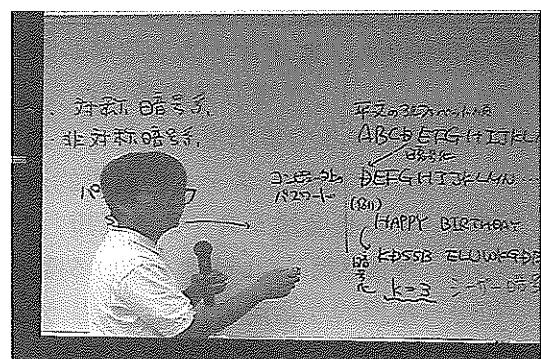
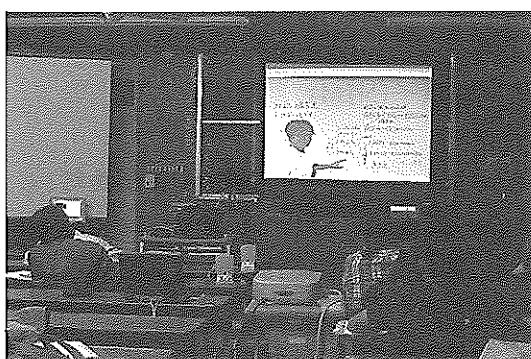
3-3 (4) で述べた Gigabit ネットワークによる遠隔講義の様子である。



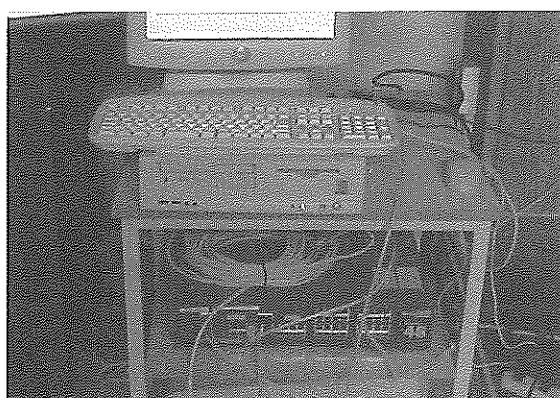
〔教育福祉科学部 300 号教室  
での受講の様子〕



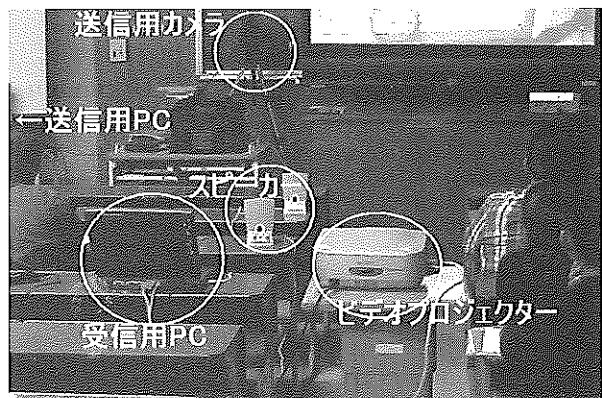
〔佐賀大学のスクリーンに映写された  
PowerPoint を DVTS で受信〕



〔佐賀大学のホワイトボードに板書。教員は普段の講義  
と変わらない書き方で行っている。〕



〔送信用 PC と Gigabit SwitchingHUB〕



〔DVTS を実施する際の機器〕

### 3. 海外調査

調査実施日程が3月になったため、H13年度報告書執筆に間に合わず、H14年度の報告書に資料として付す。

大分大学と学術交流協定を結んでいる米国の University of Texas at Austin と Sun Francisco State University 等に調査及び視察を行った。

#### 日程

|          |                      |
|----------|----------------------|
| 3月13日（水） | Austin（米国・Texas州）着   |
| 3月15日（金） | Texas大学Austin校訪問     |
| 3月16日（土） | Austin発SanFrancisco着 |
| 3月18日（月） | スタンフォード大学見学          |
| 3月19日（火） | サンフランシスコ州立大学訪問       |
| 3月20日（水） | シリコングラフフィックス社訪問      |
| 3月21日（木） | San Francisco発（米国）   |
| 3月22日（金） | 大分着                  |

#### 訪問目的

情報メディアの進展により高等教育に新しい教育方法、学習システムが導入されつつある。やはりこの分野では米国はかなり実績ができつつある。今回大分大学と交流協定を結んでいるテキサス大学オースチン校において遠隔学習等の事例や遠隔授業の可能性を調査し、本学における教育・学習システムの検討に役立てる。さらに同様に提携校であるサンフランシスコ州立大学（SFSU）で、FD等の調査と今後提携校との共同授業の可能性を探ってくる。これらは今後大分大学の国際化の1つとして活かしていく必要がある。さらに、インターネット授業等ネットワークがどの様に大学教育に活かされているのか視察してくる。

以上のような観点にたって、下記の3カ所の調査報告を述べる。

- ・Webを用いた物理学の学習システム
- ・サンフランシスコ州立大学の授業向上センター
- ・サンフランシスコ州立大学日本語学科訪問について

---

#### 【1】Webを用いた物理学の学習システム

経済学部 松隈 久昭

訪問日：平成14年3月15日

訪問先：テキサス大学オースチン校

ここでは Charles Chiu 教授（テキサス大学オースチン校物理学部）が作成した「ウェブを用いた物理学の学習システム」を説明する。なお、Chiu 教授は、同じ学部の Udagawa 教授に紹介していただいた。

Chiu 教授は、学生に対して、ウェブ上で物理学の学習をするシステムを開発している。図 1 はその概要を示したものである。図では、インストラクター、ウェブの役割と学生の活動がわかりやすく説明されている。まず、インストラクターは学生に対して、物理学の学習システムを紹介する。学生は、ウェブ上で履修登録が可能であり、自分の成績を見ることができる。また、学生は一定の料金を払い授業に参加するが、同時に物理学の学習システムを利用することもできる。

### 1. 学習システムを作成した目的

物理学は、1セメスター当たり約 1,000 人が履修している。各学生の宿題を紙ではなく、ウェブ上で行うことにより、簡単に集めることができ、また点数をつけて返却することも可能になる。また、基礎的な問題を各学生が解くことにより、参加意識を高めることができる。

### 2. システムの有効性

このシステムを使用する有効性は、以下の 5 点である。

- ① 学生の興味・関心を高めること。
- ② インストラクターおよび学生へ瞬時にフィードバックができる。
- ③ 受講生の多いクラスにおいて、各学生への参加意識をたかめること。つまり、各学生が積極的にクラスに参加し、講義に遅れないようにすることができる。
- ④ 学生が物理学を勉強する際、基本的な法則を理解すること。クイズ形式の宿題を解くことにより、論理的証明、計算能力を養うことができる。
- ⑤ 教員は、学生が意見を書く Comment Board にアクセスし、学生がわからない点を把握することができる。また、ウェブ上で質問に答えることにより、一度の説明で多くの学生に伝えることができる。

### 3. システムの内容

ウェブ上で物理に関する問題を出し、それに対して学生が答えを記入する形式である。

以上のように、ウェブを用いた物理学の学習システムは一定の成果を上げている。問題点としては、コンテンツとなる問題の作成に時間がかかることがある。

---

## 【2】サンフランシスコ州立大学日本語学科訪問について

生涯学習教育研究センター 岡田 正彦

訪問日：平成 14 年 3 月 19 日

訪問先：国際プログラムオフィスおよび日本語学科

## ○ 訪問の目的

本訪問の目的は、サンフランシスコ州立大学（以下 SFSU と略記）と本学が交流協定を結んでいるため、メディアを用いた遠隔教育プログラムの実施可能性について検討し、あわせて、今後の両大学間の学生・教職員の交流について意見を交換することにあった。

## ○ 協議の概要

### ① 国際プログラムオフィスとの協議に関して

オフィスのコーディネーターであるヤラビネック教授に対応していただいた。大分大学との交流については、先方としても是非積極的に行っていきたい旨話していただいたが、大分大学から SFSU へ留学する学生に比べ、SFSU から大分大学に留学する学生が少なく、その比率が連邦の定める基準を超えていたため、現在大分大学からの留学を受け入れられない状態にある旨説明があった。この事態を解決するためには、SFSU からの留学を促進する取り組みが必要であり、この点については日本語学科と具体的に話していただきたいとのことでアポイントを取っていただいた。

### ② 日本語学科との協議に関して

日本語学科の学科長であるマキオンみどり教授とみなみまさひこ講師に対応していただいた。冒頭大分大学との交流に大変感謝している旨ご挨拶があり、大変丁重に対応していただいた。

学生の交流の現状については、国際プログラムオフィスでの協議と同様の状況説明があり、SFSU からの留学を促進することが必要であるとの認識で一致した。

SFSU からの留学生は以前にノイローゼになり大分大学での留学を切り上げて帰国したことがあり、直接大分大学の責任ではないが、今後の誘致のためには手厚い対応など大分大学の特長を明確に示す必要があるとのことであった。SFSU では、日本の大学としては早稲田大学と京都外国语大学の 2 校と交流協定を結んでおり、SFSU の学生が留学先を検討するときにはこの 2 校が競合校になる。日本語のかなりできる学生をチューターのようにしてつけてもらえると目玉になる。さらに友達を紹介するなどのきめ細かい対応をしていただけると、先方としても推薦しやすいとのことであった。

SFSU からの留学は学部学生が多いが、自閉症気味になったり問題を起こしやすい。大学院の学生はそのような問題は少ないが、SFSU 日本語学科の場合、日本人学生がかなりの割合を占め、日本への留学は可能性が低い。また、留学の差異の検討条件の 1 つとして、留学先での学習が SFSU で単位認定されるかどうかも重要である。そのため、日本語教育科目の一覧やシラバスなど送っていただけるとよい。さらに、学生の留学先決定に際しては、奨学金が取れるかどうかと言うことが非常に重要な判断基準になっていることも説明された。

学生の交流ということで言えば、留学だけでなく、Eメールによる WEB を通した交流も効果的である。カリフォルニア州の日本語教師会では、メール・フレンドの募集をすればコーディネートしてもらえるし、SFSU でも対応できる。ただし、SFSU で参加する学生が英語のネイティブとは限らない点には注意が必要である。

遠隔教育プログラムについては、先方が利用している「ブラックボード」（マルチメディアを活用したコースデリバリー用のソフトウェア。シラバスを送ったり、メールで議論

したり、評価を送ったりできる) や「ディスカッション・ボード」などを用いるプログラムに参加することはできる。

以上のような点について協議を行った。今後継続的に交流を推進していくためには、まずこちらからの情報発信が重要であると感じた。

---

### 【3】サンフランシスコ州立大学の授業向上センター

(the Center for the Enhancement of Teaching, San Francisco State University)

教育福祉科学部 伊藤 安浩

訪問日：平成14年3月19日

訪問先：サンフランシスコ州立大学の授業向上センター

大学授業の改善・向上のためのテクノロジー利用の実態を調査するために、2003年3月19日(火)にサンフランシスコ州立大学の授業向上センター(以下、CET)を訪問した。CET 初代ディレクターのカセラ博士はじめ、数名のスタッフに対するインタビューや施設の見学も実施した。以下で、CET の活動内容等について報告する。

#### CET の概要

CET は三年の準備期間の後、優れた大学授業の開発を支援する全学的センターとして1993年2月に設立された。CET のオフィスと会議室は、設立当初から今日に至るまで、大学図書館の4階に位置している。15名から成る顧問委員会によって運営される CET の現在のスタッフは、ディレクター以下、アシスタント・ディレクターが1名、コラボラトリ(Collaboratory=Collaborate+Laboratory, IT教室の名称)・コーディネーターが1名、オンライン授業、マルチメディア、ウェブ・デザインの専門家が3名、伝統的スタイルの授業の向上と訓練のコーディネーターが2名、情報技術コンサルタントが2名である。この他、ウェブ・デザインやグラフィックスのアシスタントとして、15名の学生が仕事をしている。CET は、23の会員大学から成るカリフォルニア州立大学システムにおける一つのモデルとなってい

#### CET の活動内容

CET は現在、大学教員やスタッフに対する以下の6つのプログラムを通して活動している。

第1は「伝統的スタイルの授業」(Traditional Teaching)の向上に関するものである。大規模クラスや、大学での学習レディネスを欠いた学生への対応、小グループでの共同的学習の方法などに関する新しい知見を提供するプログラムである。

第2は「テクノロジーの訓練」(Technology Training)に関するものである。基礎的な教授テクノロジーの習熟や、教材としてのマルチメディア開発のための施設とワークショップを提供している。必要な場合には、CET スタッフが一対一で教員に対する支援を行っている。

1回のワークショップは2時間から4時間かけて行われるが、その内容は、オンライン授業やオンライン

ン試験の方法、データベース構築の方法、コンピューターを媒介としたファイル交換の方法から、例えば「フォトショップ」「ドリームウィーバー」「パワー・ポイント」「ページメーカー」「ファイメーカー」など市販のソフトの活用方法までを含んだものとなっている。また、ワークショップへの参加は、学内ネットを通じて登録できるようになっている。

このようなテクノロジー利用による教授技術の向上がCETの活動の主眼となっているが、サンフランシスコ州立大学では2002年春学期において、教育学1科目、民族学1科目、健康教育学5科目、経営学2科目、数学1科目が、完全なオンライン授業として開講されている。

第3は「インターネットを媒介とした学習」(Internet Mediated Learning)の開発に関するものである。教育と研究におけるインターネット利用の可能性、インターネットで得られた情報の集約化、インターネットを利用した学習と通常教室での学習との関連づけ、これらに伴うカリキュラムの再構築などに関する助言と技術的支援を提供するプログラムである。

また、学生の学習におけるインターネット利用の増加に伴って、レポートなどにおける「剽窃」(plagiarism)の問題も顕在化してきており、CETでは、「剽窃」が知的財産や著作権の侵害であるという自覚と注意を、学生にも教員にも促している。

第4は「ビデオを媒介とした学習」(Video Mediated Learning)の開発に関するものである。授業における主要なメディアとしてのビデオ利用の可能性に関する助言と技術的支援を提供するプログラムである。サンフランシスコ州立大学では、ビデオを利用した遠隔教育の開発に向けた技術コンサルタントを雇用している。

第5は「IT教室」(Collaboratory)の活用に関するものである。教室での学習におけるコンピューターを利用したコミュニケーションは、グループでの意思決定や学生の共同的学習に対して特に効果的であると考えられており、このプログラムでは、学生の共同的学習やグループ・ワークにおける情報技術の利用方法に関する知見が提供されている。

第6は「新任教員」(New Faculty)に対する意識啓発と情報提供に関するものである。サンフランシスコ州立大学の新任教員は1週間にわたるオリエンテーションに参加することになるが、そこでは、大学における管理的また個人的な事項の詳細が説明されるだけではなく、効果的な授業を開発するためのワークショップや、教員として利用可能な大学の人的・物的な教育資源についての説明も提供される。このオリエンテーションの初日は、新任教員と学部長などの管理職が、ともに朝食(ベーグル)をとることから始まるというのがユニークである。

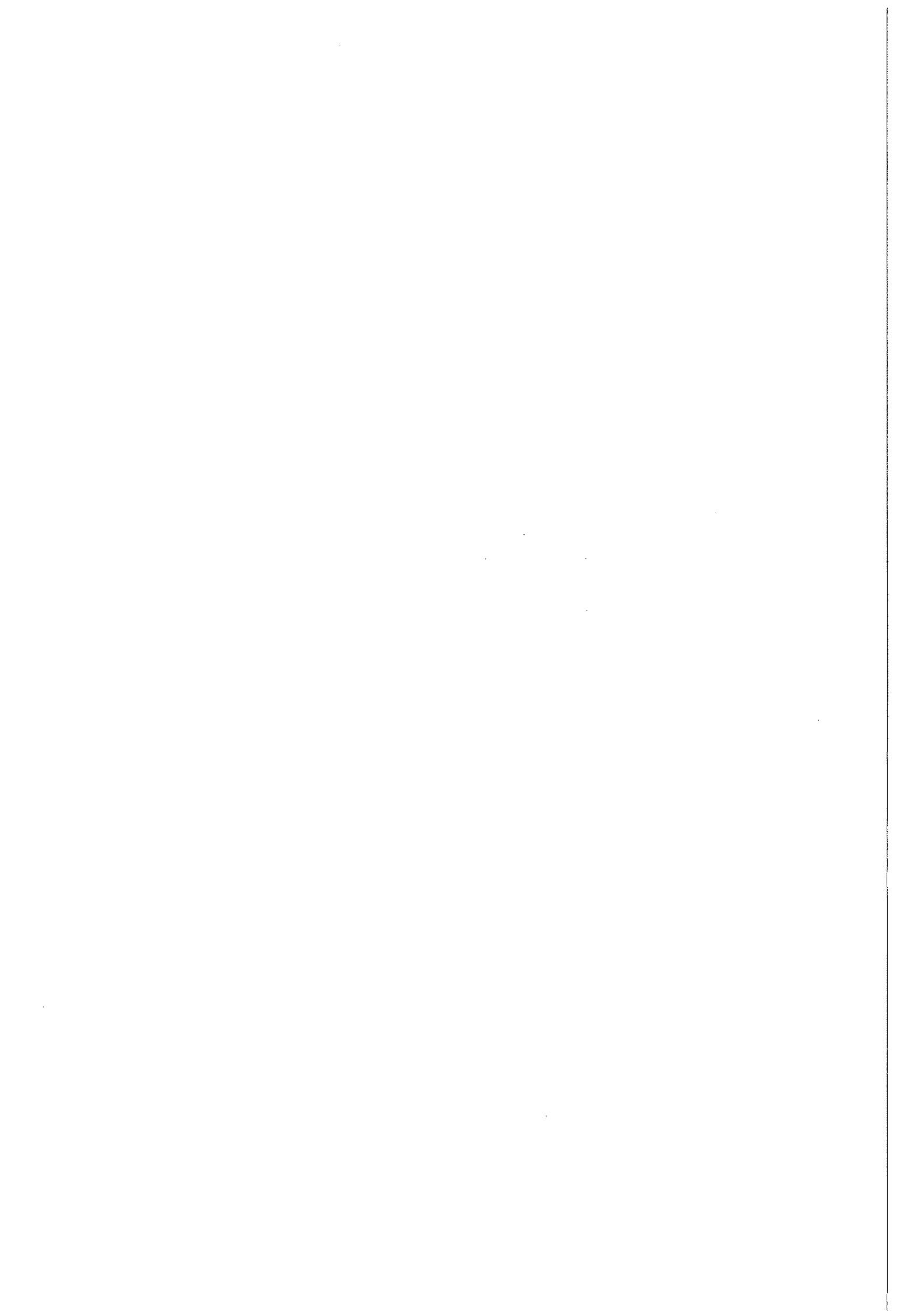
CETはこれら6つのプログラムの他に、効果的な授業を実践するためのチップ(秘訣)集を大学のウェブサイト(ホームページ)で公開するという活動も行っている。様々な専門領域を持った教員が、自分の授業実践における工夫を電子メールでCETに寄せ、CETのディレクターがその中からいくつかをピックアップして掲載している。このようなチップ集を公開することで、それぞれの教員が自分一人では思いつかなかつたような示唆を得ることができるようになっている。

## 総括

CETは、その準備期間も含めれば、既に10年以上の歴史を持っている。最初は図書館の一つの小部屋から始まったCETは、現在では10名のスタッフと15名の学生スタッフから成る組織へと成長し、物理的にもかなり広いスペースを占めるまでになっている。このような人的また物的な資源の確保が、大学教育におけるテクノロジー利用を効果的なものとしていくためには欠かせないであろう。また、サンフランシスコ州立大学のウェブサイトの表紙には、学生が様々な場面で生き生きと活動している様

子を伝える写真が掲載され、その写真は1週間に1回程度は更新されている。このような「現在性」とちょっとした「気持ちの余裕」が、大学におけるテクノロジーをより身近なものとしていく契機となり得ることを実感させられた訪問調査でもあった。

### iii. FD支援プロジェクト



## FD 支援プロジェクト

### 1. プロジェクト活動の目的

全教員が主体的にFD活動に関与することをめざす。教務協議会が主催するFD活動に全学部の教員が4年間に一度は参加できるよう、教務協議会のFD活動を支援し、FDワークショップの企画・立案および実施の支援を行う。

### 2. プロジェクト研究員

市原宏一（経済学部・責任者）

黒川 熱（教育福祉科学部）

行天啓二（工学部）

### 3. 活動報告（経過及び成果）

教務協議会の提起による全学的FD活動の一部は、昨年より当FDプロジェクトが企画を担当してきた。本年度は昨年に引き続き、教育技法の改善を中心課題とし、4つの形態のワークショップを行った。

#### (1) 合宿研修ワークショップ

分科会での報告とこれを踏まえた全体討議という様式で、2つの課題について合宿研修が取り組まれた。

第一日目は、「授業改善の取り組み」について、3分科会に分かれ、3人の報告者から専門を超えて、大学教育における課題や、教育技法の改善についての取り組みが報告され、それをもとに個々人の取り組みの紹介などの意見交換が行われた。

第二日目は「学部の教育課題」について、学部ごとにそれぞれの分科会で検討が行われた。

① 期日 2002年9月26日（木）・27日（金） 一泊二日

場所 大分県厚生年金休暇センター

## ② 研修日程

分科会 I 「授業改善の取り組み検討」 26 日（木） 15～17 時

|    |   |
|----|---|
| A班 | △石橋健司, 長田明彦, 西本一雄, ◎奥田憲昭, 気賀沢忠夫,<br>岸牧人, ○越智義道, 菊池健児,     |
| B班 | 山崎清男, ◎吉松圭之介, 合田公計, ○高山英男, 下田憲雄,<br>平田誠, 福田亮治, 宮川浩臣, △劉孝宏 |
| C班 | 橋本美枝子, ○望月聰, △高見博之, 嘉目克彦, 酒井謙二,<br>◎柴田克成, 末田直道, 鍋島隆       |

◎報告者, ○司会, △記録

全体会 I 「授業改善の取り組み検討」 26 日（木） 17～18 時

グループでの検討内容の報告を下にした全体検討会（○氣賀沢忠夫, △酒井謙二）

懇談会 26 日（木） 19 時半～21 時

分科会 II 「学部の教育課題」 27 日（金） 9～11 時

|         |  |
|---------|--|
| 教育福祉科学部 | 石橋健司, 長田明彦, 西本一雄, ◎黒川勲, △橋本美枝子,<br>望月聰, ○山崎清男, 吉松圭之介,          |
| 経済学部    | 奥田憲昭, 気賀沢忠夫, ○岸牧人, △合田公計, 高山英男,<br>○下田憲雄, 高見博之, 嘉目克彦           |
| 工学部     | 越智義道, 菊池健児, ○平田誠, △福田亮治, 宮川浩臣,<br>劉孝宏, 酒井謙二, 柴田克成, 末田直道, ○鍋島隆, |

◎報告者, ○司会, △記録

全体会 II 「学部の教育課題」 27 日（金） 11～12 時

グループでの検討内容の報告をもとにした全体検討会（○末田直道, △西本一雄）

合宿研修ワークショップ・タイムスケジュール

26 日（木）

13.00 15.00 17.00 18.00 19.30 21.00

| 大<br>学<br>出<br>発 | 分<br>科<br>会<br>I | 全<br>体<br>会<br>I | 夕<br>食 | 懇<br>談<br>会 |
|------------------|------------------|------------------|--------|-------------|
|                  |                  |                  |        |             |

27日（金）

9.00 11.00 12.00 13.00 14.30

|    |      |      |    |      |      |
|----|------|------|----|------|------|
| 朝食 | 分科会Ⅱ | 全体会Ⅱ | 昼食 | 会場出発 | 大学到着 |
|----|------|------|----|------|------|

## （2）メディア教材制作ワークショップ

このワークショップはプレゼンテーション用教材の作成手法の習得を目的として、ホームページ作成の研修が行われた。生涯学習教育研究センターと共に催で行われ、希望者も多く、教職員向けの生涯教育としての意義も高いことを考慮して、予定していたクラスを一つ増やして、下記の2テーマについて各2時間、3回に分けて実施した。

### ①「ホームページ作成の基礎」

簡単にホームページを作成することのできるアプリケーションソフトウェアであるホームページビルダーの基礎として、起動、終了法からはじめて、文字入力、画像の挿入、表の挿入、ボタンの配置、リンクの挿入までを行った。

### ②「ホームページ作成のTips」

ホームページビルダーの持つ機能を使用したより表現豊かなホームページ作成を行った。内容としては、ホームページの公開、フレーム、動きのある画像の挿入、効果の付加などをとりあげた。

期日 10月7, 10, 17日（担当講師：藤井弘也・教育福祉科学部）

10月8, 11, 18日（担当講師：谷野勝敏・教育福祉科学部）

場所 総合情報処理センター第3実習室

参加申し込み者数 41

| 日程(10/7・10・17)  | 日程(10/8・11・18)   | 学部               |
|---|--|------------------|
| 泉好弘, 大杉至, 大月恒,<br>緒方武秀, 金子光茂, 川崎道広,<br>家本宣幸, 関本順子                   | 田畠千秋, 黒井辰昭, 掘越紀香,<br>園山大祐, 軸丸勇士, 横溝宏佳,<br>長谷川考志, 森長徳, 松本正,<br>中島俊男, 田中星治, 丸山裕子,<br>森望, 久保加津代, 森玲子,<br>中溝朋子, 芝原雅彦, 吉岡義正 | 教育福祉科学部<br>(26名) |
| 奥田憲昭, 嘉目克彦, 丸山武志,<br>安田俊介, 高見博之, 二宮浩彰,<br>井田知也, 宮町良広, 鵜崎清貴,<br>城戸照子 |  | 経済学部<br>(10名)    |
| 木下和久, 小川幸吉, 藤田米春,<br>草柳英一郎, 星野修                                     |  | 工学部 (5名)         |

### (3) web を活用した教育・学習環境開発ワークショップ

このワークショップでは、Web やインターネットを教育に活用するための教材と教授法の検討を目的として、実際にコミュニケーションツールを活用して、教材の作成やこれに応じた環境の検討を行った。大学教育開発支援センターのメディア教育プロジェクトとの共催により、下記のプログラムについて各 2 時間、3 回に分けて実施した。

① 1回目：ビデオ映像が Web 環境から簡単に利用できるようになることは、教育的な面で効果が期待できる。教材資料としてのビデオ映像を、簡単にホームページから利用できる技術について研修した。

② 2回目：Web 環境を利用したインタラクティブなホームページ作成について実習した。マイクロソフトの ASP という、Web 対応のツールを作成するためのアプリケーション開発環境を使った。

③ 3回目：前回の応用としてデータベース利用について実習した。これらの環境を作っていくことは、学生からの課題提出等の授業支援に利用が可能となる。

期日 11月 15, 22, 29 日 : 18.00 ~ 20.00

場所 教育福祉科学部マルチメディア実習室

参加者 10 名 (担当講師：大岩幸太郎, 山下茂・教育福祉科学部)

| 氏名                     | 学部      |
|------------------------|---------|
| 牧野治敏, 藤田敦, 小松貴弘, 中溝朋子  | 教育福祉科学部 |
| 石原達己, 酒井孝司, 濱川洋充, 吉田和幸 | 工学部     |

#### (4) 教養教育・授業公開ワークショップ

このワークショップでは、教養教育における教授法・教材の工夫を進めるとともに、教養教育の課題と各授業と関連の検討も深めることを目的として、参加者相互の授業公開と参観を行った。全学的には初めての試みとなる授業の相互参観を通じて、各教員の授業を実際に経験するとともに、全体検討会ではそれぞれの取り組みを相互に紹介、検討した。

##### ①日程

事前ガイダンス 11月27日（水）12.50～14.20

教養教育科目授業相互参観 12月3, 5, 6日

：公開授業担当者は、授業の課題（授業のねらいや目標）、授業のながれ、公開当日分の内容や授業資料などの資料を用意した。公開授業担当者は自身の他に1つ以上、参観のみの参加者は複数の授業を参観した。

| 氏名    | 曜限    | 講義       | 参観者                                |
|-------|-------|----------|------------------------------------|
| 安岡正義  | 3日・火1 | 基礎ドイツ語ⅡB | ○池内宣夫, 金澤誠司, 池内秀隆                  |
| 城戸照子  |       | 地中海の都市史  | ○熊谷教子, 田中洋, 池内宣夫, 永田忠道, 池内秀隆, 多田一路 |
| 市原宏一  |       | 人と環境の関係史 | ○永田忠道, 熊谷教子, 金澤誠司, 池内秀隆, 多田一路      |
| 岡元保憲  | 5日・木2 | 物理学への招待  | ○肥川宏臣, 濱本誠, 金澤誠司, 安岡正義             |
| 松田修明  |       | 英語Ⅱ      | ○金澤誠司, 肥川宏臣, 安岡正義                  |
| 根篠美代子 | 6日・金2 | ジェンダー論   | ○池内秀隆, 金澤誠司                        |
| 多田一路  |       | 日本国憲法    | ○田中洋, ○濱本誠, 金澤誠司                   |

○印はコメント担当

検討会 12月7日（土）9.00～12.00（教育福祉科学部第1会議室）

：授業提供者及び参観者からコメントを踏まえ、授業検討会を行った。また、参観のみの参加者は自身の授業改善取り組み例を文書で紹介した。

#### 4. 今後のプロジェクト活動

昨年度のワークショップは合宿研修で行われた。その特徴は、学外の施設に宿泊して短時日に行うことにある。参加者が日常的に交流しているわけではない、全学規模での研修活動においては、研修のみを目的として、一箇所に集うことで、日常的な業務から離れることができ、短時日に集中した成果を上げることができた。他方で、合宿研修型の特徴は同時に欠点でもある。日常的な教育の場を離れてしまうことは、平常の授業・教育からも遠ざかることになる。また、短時日に集中することは、課題を特定じて継続的に検討するものではない。今年度のFDワークショップは昨年同様に合宿研修も行う一方で、新たな形態も催行して、合宿研修型における課題への対応を図った。新たに行ったワークショップはいずれも、平日に学内で一週間以上の期間をかけている。これにより、通常の授業や教育内容を実際に研修に組み入れて検討を行うことができた。また、メディア機器等の学内施設設備を活用して、実際に講義などに用いている条件の下での実習も行っている。

今年度の活動総括を経た課題は、参加者自身の感想などを踏まえて、別な機会を予定しているが、以下に簡単にまとめてみよう。近年の学生の履修プロフィール多様化や、メディア機器などの高度化に伴い、教育方法・内容を多面的に検討する必要性が従来以上に高まっている。今後のFD活動においても、そうした要請に応じて、一層の改善が継続的に図られる必要があろう。今年度は複数の教育内容・方法の検討の機会があり、その点では多面的な検討に一定の寄与ができたと考えられる。しかし、ワークショップでの参加者の対応は、提供され、用意された課題を、論議したり、修得したりするという形であり、必ずしも主体的であったわけではない。この点は全学的なFD活動が、3名のプロジェクトが企画するワークショップに、事前の企画には関与していない教員が参加を義務づけられるという催行形態をとっている以上やむを得ない。ただし、こうした現在の形態のままだけでは、教員や教室・研究室、学部毎に多様化している現今の教育課題に対応しきれない。今後の全学FD活動においては、個々の教員の発意や創意が生かされ、それが継続して取り組まれるような要素が必要である。こうした取り組みは、従来欠けていたわけではないが、一部の部局内部に限定されており、個々の教員・教室などの個別的な努力にとどまっていたりしており、少なくとも全学的にその経験や成果が交流されたわけではない。今後はこうした個別的な取り組みが、全学的なFD活動として、位置づけられ、評価される形式も追求されるべきである。それによってこそ、先に述べたような多様な教育課題に応じた多面的な対応が可能になると考えられる。

iv. 学生による授業評価プロジェクト



## 学生による授業評価プロジェクト

### 1. プロジェクト活動の目的

学生による授業評価の実施母体である教務協議会の活動を支援するために、全学統一した授業評価アンケートの立案・作成およびアンケート調査結果の集計・分析を行う。

学生による授業評価により、授業に対する学生の生の声を授業担当教官に知らせ、教官自身が授業評価の結果を真摯に受け止め、授業を反省することにより授業改善につながることが期待される。

### 2. プロジェクト研究員

川寄道広（センターチーフ、責任者）

泉 好弘（教養教育、前期）、安田俊介（教養教育、後期）

永田忠道（教育福祉科学部）

安岡正義（経済学部）

牟田征一（工学部）

### 3. 活動報告（経過および成果）

#### （1） 第1回プロジェクト会議 5月29日（水）（14：40～17：00）

第1回の会議において、本プロジェクトの活動方針の確認、授業評価アンケート調査項目の検討および調査結果の分析方法の検討を行った。

##### ① 「学生による授業評価プロジェクト」の活動について

まず、本プロジェクトの活動について、経過や目的、業務および教務協議会との関連等について確認した。

大分大学における授業評価の試みは、平成9年度から各学部における取り組みから始まった。そして「学生による授業評価」の重要性が認識されたことにより、平成12年度からは教務協議会を実施母体として全学的に実施されることとなった。平成13年に大学教育開発支援センターが設置されるにともない、センターの重要なプロジェクトの一つとして「学生による授業評価プロジェクト」が立ち上げられ、授業評価の活動を支援することとなった。しかし本プロジェクト活動はあくまで教務協議会の活動を支援するものであり、実施母体は教務協議会である。

教務協議会との関連から、大学教育開発支援センターで行う「学生による授業評価」プロジェクト活動は以下のように考えられる。

##### ア、基本的事項

実施の趣旨・目的や対象授業科目、評価項目、集計・分析結果の取り扱い等の基本

の事項の決定、および各学部教授会への依頼は教務協議会が行う。大学教育開発支援センター（本プロジェクト）では主に企画・立案と集計・分析業務を担当する。

イ、授業評価の目的・目標

「学生による授業評価」の目的・目標は以下のとおりである。

『学部教育の質の向上を目的とし、①担当教員としての使命の自覚、②教授法の改善への直接的な資料の提供、③担当教員としての教授能力の開発、④学生の学習態度の反省と学習意欲の向上を目標とする。』

ウ、対象授業科目

評価の対象となる授業科目については、1つの授業科目がおよそ3年に1度、評価対象になることが教務協議会において決定されている（工学部を除く）。

エ、評価項目

評価項目は大学教育開発支援センター（本プロジェクト）において案を作成し、教務協議会において了承を得る。

オ、集計・分析業務

平成13年度以降のアンケートの集計・分析の業務については大学教育開発支援センター（本プロジェクト）で行う。

② 「学生による授業評価」アンケート調査項目の検討

平成13年度の「学生による授業評価」アンケート調査項目に基づいて評価項目を検討した。プロジェクト会議では平成13年度の「教官アンケート」において問題点が指摘された項目について修正した調査用紙の原案を提示し、その他の項目や「自由記述」欄も含めて調査項目を全面的に見直した。

従来の調査項目からの主な変更点は以下のとおりである。

ア、問1と問2を1つの間にまとめた。

従来の問1（学部）と問2（課程・学科）をあわせて、問1（学部・課程・学科）とした。従来の様式では、複数の学部の学生が受講している授業（特に教養教育の授業）において、課程と学科の識別が困難な状況が起きていたために改善した。このため、評価項目数は従来の21問から20間に変更となった。

イ、シラバスの項目を変更した

従来の問4「この授業の選択にあたり、シラバスが役立った」を変更し、問3「この授業ではシラバスが役に立った」を設定した。シラバスは授業選択のためのみに用いられるものではなく、授業内容や進度の把握や予測のためにも用いられるものであるために、これらの意味を含めた表現に変更した。

ウ、調査項目の表現を改めた

従来の問7「私は予習・復習を含め、この授業に意欲的に取り組んだ」の予習・復習の表現を削除し、問6「私はこの授業に意欲的に取り組んだ」とした。また従来の問18「授業時間（授業の開始と終了の時間）は守られていた」では、開始・終了時刻厳守の意味が強すぎることから、問17「授業時間（授業の開始と終了の時間）は適切に守られていた」とした。

エ、「自由記述」欄の質問の表現を見直した

従来の「自由記述」欄の③「その他、批評、提案、意見（人権に関わる事柄への担当教員の配慮を含む）を書いてください」を、③「その他、意見や感想を書いてください」と変更し、自由に記述できるようにした。

以上の変更により、平成 14 年度の「学生による授業評価」の設問項目は、次の 4 つの枠組みから構成され、各設問項目には 4 段階の尺度で回答するように設定された。

( p.28～p.32 の平成 13 年度（従来）および平成 14 年度の  
『授業改善のためのアンケート』を参照)

i. 学生の所属に関する質問項目

問 1 および問 2 の 2 項目により学生の所属を明らかにする

ii. 学生の授業への取り組みを評価する項目

問 3 から問 6 までの 4 項目により学生の授業への取り組みを自己評価する

iii. 授業内容および授業方法に関する項目

問 7 から問 18 までの 12 項目により担当教員の授業内容および授業方法を評価する

なお問 19 は、担当教員が必要に応じて自由に設定できる設問項目である

iv. 授業の総合評価を表す項目

問 20 「総合的に判断してこの授業は良かった」により授業の総合評価を行う

③ 「学生による授業評価」アンケート調査の集計・分析の方法の検討

平成 13 年度の「学生による授業評価」アンケート調査の集計・分析方法に基づいて平成 14 年度の集計・分析方法について検討した。

平成 14 年度も平成 13 年度の集計・分析方法を踏襲することが承認された。

また平成 13 年度の「教官アンケート」において担当教員の授業の位置づけがわかり難いという指摘があることから、集計段階において新たに各設問項目における『平均点』を算出し、その結果を各担当教員にお知らせするとともに、データ全体の傾向分析にも活用することとした。なお『平均点』は、各設問項目における 4 段階評価のそれぞれに 3 点から 0 点を対応づけることにより算出される。( p.33 の個人データの平均点参照)

平成 14 年度の「学生による授業評価」の評価対象、集計・分析方法は以下のようにまとめられる。

ア、調査対象

(平成 14 年度前期)

教養教育：自然分野

教育福祉科学部：C グループ（授業担当者の名前 は～わ）

経済学部：各学科 3 番目の講座の科目

工学部：全科目

(平成 14 年度後期)

教養教育：語学分野

教育福祉科学部：A グループ（授業担当者の名前 あ～こ）

経済学部：学科共通科目、各学科最初の講座の科目

工学部：全科目

#### イ、集計方法

データは以下の3種類5通りの方法により集計する。

##### i. 単純集計

教養教育および各学部において全データの単純集計を行う。なお平成14年度より、各評価項目の4段階尺度を数量化し、平均値を求めて単純集計とともに提示する。

##### ii. 分類別集計

教養教育、教育福祉科学部は分野・科目別分類による集計は行わない。

経済学部は、前期は分野・科目別分類による集計は行わないが後期は行う。

工学部：必修科目と選択科目の2つの分類別集計を行う。

##### iii. クロス集計

a. 総合評価項目（問21）の肯定的評価（『そう思う』『どちらかというとそう思う』）と否定的評価（『どちらかというとそう思わない』『そう思わない』）それぞれと、他の項目とのクロス集計を行う。

b. 総合評価項目（問21）の肯定的評価をA群（90%以上）、B群（80%以上90%未満）、C群（80%未満）に分類し、その分類ごとに他の項目とクロス集計したものを3次元グラフで表す

c. 問3（入学年）、問7（意欲）、問11（わかりやすさ）それぞれと、問21以外の項目とのクロス集計を行う。

#### ウ、分析方法

集計されたデータは集計方法ごとに以下のように分析する。

##### i. 傾向分析

全データの単純集計および各評価項目の平均値に基づいて傾向分析を行う。

##### ii. 比較分析

分類別集計に基づいて分類間の特徴を比較分析する。（前期は工学部のみ、後期は経済学部と工学部が該当）

##### iii. 相関分析

a. クロス集計に基づいて肯定的評価および否定的評価と他の項目との相関を比較分析する。

b. 3次元グラフに基づいてA群、B群、C群の特徴を比較分析する。

c. クロス集計に基づいて問3、問7、問11それぞれと問21以外の項目との相関を分析する。

### （2）平成14年度前期「学生による授業評価」の実施および集計・分析 7月～10月

授業評価プロジェクトにより作成されたアンケートを用いて、7月の講義終了前2週間の期間に「学生による授業評価」が実施された。本センターにおいてデータの集計が行われ、各授業担当者に個人データが送付された。授業担当者には同時に『授業評価のためのアンケート—教官用—』が配布され、9月末日までに回答を依頼した。

9月から10月の期間に、授業評価プロジェクト研究員により、3学部と教養教育に関する全データの集計に基づいてそれぞれの分析が行われた。分析結果は持ち回りの検討の後、

修正され、平成 14 年度内に報告書として公表される予定である。

(3) 平成 13 年度後期「学生による授業評価」報告書の発行 平成 14 年 10 月

『授業改善のためのアンケート調査—学生による授業評価—』の平成 13 年度後期分の報告書を発行した。

(4) 平成 14 年度後期「学生による授業評価」の実施および集計 平成 15 年 1 月～2 月

平成 14 年度後期の「学生による授業評価」が 1 月の講義終了前 2 週間の期間に実施された。直ちにデータの集計が行われ、2 月 26 日に各授業担当者に個人データが送付された。授業担当者には同時に『授業評価のためのアンケート—教官用—』が配布され、3 月 14 日までに回答を依頼した。

なお、教官用のアンケートを見直し、今回から新たな様式のアンケートが実施された。  
(p.34～p.35 参照)

3 学部と教養教育に関する全データの分析は、3 月から 4 月の期間に行われ、修正・校正を経て、平成 15 年度当初に報告書として公表される予定である。

#### 4. 今後のプロジェクト活動

本プロジェクトは単年度の設定であるために、以下の諸点に関しては次年度のプロジェクトにおいて検討することになる。

① 平成 14 年度の『学生による授業評価』を反省し、必要に応じて改善を図ることにより、平成 15 年度はよりよい授業評価を行えるようにする。

現在、既に指摘されている検討事項は、問 3 「シラバスが役に立った」の意味が曖昧であるために改善すること、およびクロス集計をする際に、相関関係の有無の判断基準を各学部・教養教育間で調整・統一することである。

② 授業評価の分析結果の扱いは現在のところ、各授業担当教官に個別の集計結果をお知らせするとともに、教養教育および 3 学部それぞれについて全体的な傾向を報告書として公表することになっている。しかし労力をかけて作成された報告書は有効に活用されているとは言い難い状況である。分析結果が各授業担当教官の授業改革に有効に働き、FD が進展するためにもさらに検討する必要がある。

平成 14 年度は平均点表示により、各授業の位置づけを捉えやすくしたが、更なる改善を模索したい。また授業評価の結果を広く学生や学外の人々に公表するために、平成 14 年度から『授業評価報告書』を図書館に設置した。今後もさらなる公開のあり方を検討すべきである。

③ 授業評価の個人データの公開や、「学生による授業評価」と教員評価との関連については慎重に検討を進めなければならない。しかし大学教員の授業改善への取り組みは急務であるため、「学生による授業評価」はそれに資する価値を高めなくてはならない。

《平成13年度（従来）の「学生による授業評価」調査用紙》

(表面)

授業改善のためのアンケート

このアンケートは、大分大学における授業内容を一層充実させ、教材や授業法を開発するための資料として利用されるものです。感じたことを4段階評価で率直に回答して下さい。

このアンケートの結果が、あなたの成績の評価に影響を与えることはありません。

授業科目名

| § あなたの所属等について質問します。                                    |  | そう思う | どちらかというとそう思う | どちらかというとそう思わない | そう思わない |
|--|--|------|--------------|----------------|--------|
| 問1   | どの学部に所属していますか。<br>①教育福祉科学部 ②経済学部 ③工学部  |      |              |                |        |
| 問2   | どの課程・学科に所属していますか。<br>・教育福祉科学部：①学校教育 ②情報社会文化 ③人間福祉科学<br>・経済学部：①経済 ②経営システム ③地域システム ④未所属<br>・工学部：①生産システム ②電気電子 ③知能情報システム<br>④応用化学 ⑤建設 ⑥福祉環境 |      |              |                |        |
| 問3   | 入学年はいつですか。<br>①2001年 ②2000年 ③1999年 ④1998年 ⑤1997年以前   |      |              |                |        |
| § あなたの授業への取り組みについて質問します。                               |  |      |              |                |        |
| 問4   | この授業の選択にあたり、シラバスが役立った。   | ①    | ②            | ③              | ④      |
| 問5   | 私はこの授業によく出席した。   | ①    | ②            | ③              | ④      |
| 問6   | 私は受講態度（遅刻や私語等）に留意した。   | ①    | ②            | ③              | ④      |
| 問7   | 私は予習・復習を含め、この授業に意欲的に取り組んだ。   | ①    | ②            | ③              | ④      |
| § この授業の内容や担当教員の授業方法について質問します。<br>なお、問20は担当教員が設定する設問です。 |  |      |              |                |        |
| 問8   | この授業の目標は明確であった。  | ①    | ②            | ③              | ④      |
| 問9   | この授業の内容は興味あるものであった。  | ①    | ②            | ③              | ④      |
| 問10  | この授業の内容は量的に適切であった。   | ①    | ②            | ③              | ④      |
| 問11  | この授業は全体としてわかりやすかった。  | ①    | ②            | ③              | ④      |
| 問12  | 担当教員の話し方（速さ、明瞭さ等）は適切であった。  | ①    | ②            | ③              | ④      |
| 問13  | 学生の反応（理解度や達成度）を見ながら進められていた。  | ①    | ②            | ③              | ④      |
| 問14  | 学生の意見や質問を聞くように配慮されていた。   | ①    | ②            | ③              | ④      |
| 問15  | 教科書、プリント等の教材は適切に使用されていた。   | ①    | ②            | ③              | ④      |
| 問16  | 黒板（OHP等を含む）の使い方、板書の文字は適切であった。  | ①    | ②            | ③              | ④      |
| 問17  | 学生の私語や遅刻等に適切に対処していた。   | ①    | ②            | ③              | ④      |
| 問18  | 授業時間（授業の開始と終了の時間）は守られていた。  | ①    | ②            | ③              | ④      |
| 問19  | 担当教員はこの授業に真剣に取り組んでいた。  | ①    | ②            | ③              | ④      |
| 問20  |  | ①    | ②            | ③              | ④      |
| 問21  | 総合的に判断してこの授業はよかったです。   | ①    | ②            | ③              | ④      |

裏面にも回答欄があります。

(裏面)

来学期以降、この授業をより良いものにするために、あなたの意見を自由に述べて下さい。

①この授業で良いと思ったこと。

②この授業で改善して欲しいこと。

③その他、批評、提案、意見（人権に関わる事柄への担当教員の配慮を含む）を書いてください。

ご協力ありがとうございました。

《平成 14 年度の「学生による授業評価」調査用紙》

(表面)

授業改善のためのアンケート

このアンケートは、大分大学における授業内容を一層充実させ、教材や授業法を開発するための資料として利用されるものです。感じたことを 4 段階評価で率直に回答して下さい。

このアンケートの結果が、あなたの成績の評価に影響を与えることはありません。

授業科目名

|  |  |  |  |  |
|--|--|--|--|--|
| § あなたの所属等について質問します。  |  |  |  |  |
| 問 1 どの学部・課程・学科に所属していますか。<br>・教育福祉科学部 : ①学校教育 ②情報社会文化 ③人間福祉科学<br>・経済学部 : ④経済 ⑤経営システム ⑥地域システム ⑦未所属<br>・工 学 部 : ⑧生産システム ⑨電気電子 ⑩知能情報システム<br>⑪応用化学 ⑫建設 ⑬福祉環境  |  |  |  |  |
| 問 2 入学年はいつですか。<br>① 2002 年 ② 2001 年 ③ 2000 年 ④ 1999 年 ⑤ 1998 年以前   |  |  |  |  |
|  |  |  |  |  |
|  |  |  |  |  |
| § あなたの授業への取り組みについて質問します。   |  |  |  |  |
| 問 3 この授業ではシラバスが役に立った。 ① ② ③ ④<br>問 4 私はこの授業によく出席した。 ① ② ③ ④<br>問 5 私は受講態度（遅刻や私語等）に留意した。 ① ② ③ ④<br>問 6 私はこの授業に意欲的に取り組んだ。 ① ② ③ ④   |  |  |  |  |
| § この授業の内容や担当教員の授業方法について質問します。<br>なお、問 19 は担当教員が設定する設問です。   |  |  |  |  |
| 問 7 この授業の目標は明確であった。 ① ② ③ ④<br>問 8 この授業の内容は興味あるものであった。 ① ② ③ ④<br>問 9 この授業の内容は量的に適切であった。 ① ② ③ ④<br>問 10 この授業は全体としてわかりやすかった。 ① ② ③ ④<br>問 11 担当教員の話し方（速さ、明瞭さ等）は適切であった。 ① ② ③ ④<br>問 12 学生の反応（理解度や達成度）を見ながら進められていた。 ① ② ③ ④<br>問 13 学生の意見や質問を聞くように配慮されていた。 ① ② ③ ④<br>問 14 教科書、プリント等の教材は適切に使用されていた。 ① ② ③ ④<br>問 15 黒板（OHP 等を含む）の使い方、板書の文字は適切であった。 ① ② ③ ④<br>問 16 学生の私語や遅刻等に適切に対処していた。 ① ② ③ ④<br>問 17 授業時間（授業の開始と終了の時間）は適切に守られていた。 ① ② ③ ④<br>問 18 担当教員はこの授業に真剣に取り組んでいた。 ① ② ③ ④<br>問 19<br>問 20 総合的に判断してこの授業はよかつた。 ① ② ③ ④ |  |  |  |  |

裏面にも回答欄があります。

(裏面)

来学期以降、この授業をより良いものにするために、あなたの意見を自由に述べて下さい。

①この授業で良いと思ったこと。

②この授業で改善して欲しいこと。

③その他、意見や感想を書いてください。

ご協力ありがとうございました。

《平成 13 年度（従来）と平成 14 年度の「学生による授業評価」回答用紙》

|  |                    |   |   |   |   |   |   |   |   |
|--|--------------------|---|---|---|---|---|---|---|---|
| <b>回答用紙</b>  | 記入例<br>良い例 悪い例<br> |   |   |   |   |   |   |   |   |
| ※鉛筆はHBを使用すること  |                    |   |   |   |   |   |   |   |   |
| <b>授業科目番号</b><br><table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr><td>003 011 023 031</td></tr> <tr><td>003 011 023 032 041 051 061 071 081 091</td></tr> <tr><td>003 011 023 032 042 052 062 072 082 092</td></tr> <tr><td>003 011 023 032 042 052 062 072 082 092</td></tr> <tr><td>003 011 023 032 042 052 062 072 082 092</td></tr> <tr><td>003 011 023 032 042 052 062 072 082 092</td></tr> <tr><td>003 011 023 032 042 052 062 072 082 092</td></tr> <tr><td>003 011 023 032 042 052 062 072 082 092</td></tr> <tr><td>003 011 023 032 042 052 062 072 082 092</td></tr> </table> | 003 011 023 031    | 003 011 023 032 041 051 061 071 081 091 | 003 011 023 032 042 052 062 072 082 092 | 003 011 023 032 042 052 062 072 082 092 | 003 011 023 032 042 052 062 072 082 092 | 003 011 023 032 042 052 062 072 082 092 | 003 011 023 032 042 052 062 072 082 092 | 003 011 023 032 042 052 062 072 082 092 | 003 011 023 032 042 052 062 072 082 092 |
| 003 011 023 031  |                    |   |   |   |   |   |   |   |   |
| 003 011 023 032 041 051 061 071 081 091  |                    |   |   |   |   |   |   |   |   |
| 003 011 023 032 042 052 062 072 082 092  |                    |   |   |   |   |   |   |   |   |
| 003 011 023 032 042 052 062 072 082 092  |                    |   |   |   |   |   |   |   |   |
| 003 011 023 032 042 052 062 072 082 092  |                    |   |   |   |   |   |   |   |   |
| 003 011 023 032 042 052 062 072 082 092  |                    |   |   |   |   |   |   |   |   |
| 003 011 023 032 042 052 062 072 082 092  |                    |   |   |   |   |   |   |   |   |
| 003 011 023 032 042 052 062 072 082 092  |                    |   |   |   |   |   |   |   |   |
| 003 011 023 032 042 052 062 072 082 092  |                    |   |   |   |   |   |   |   |   |
| <b>問 1</b> 01 02 03<br><b>問 2</b> 01 02 03 04 05 06<br><b>問 3</b> 01 02 03 04 05<br><b>問 4</b> 01 02 03 04<br><b>問 5</b> 01 02 03 04<br><b>問 6</b> 01 02 03 04<br><b>問 7</b> 01 02 03 04<br><b>問 8</b> 01 02 03 04<br><b>問 9</b> 01 02 03 04<br><b>問 10</b> 01 02 03 04<br><b>問 11</b> 01 02 03 04<br><b>問 12</b> 01 02 03 04<br><b>問 13</b> 01 02 03 04<br><b>問 14</b> 01 02 03 04<br><b>問 15</b> 01 02 03 04<br><b>問 16</b> 01 02 03 04<br><b>問 17</b> 01 02 03 04<br><b>問 18</b> 01 02 03 04<br><b>問 19</b> 01 02 03 04<br><b>問 20</b> 01 02 03 04<br><b>問 21</b> 01 02 03 04                               |                    |   |   |   |   |   |   |   |   |
| 大分大学   |                    |   |   |   |   |   |   |   |   |

|  |                    |   |   |   |   |   |   |   |
|--|--------------------|---|---|---|---|---|---|---|
| <b>回答用紙</b>  | 記入例<br>良い例 悪い例<br> |   |   |   |   |   |   |   |
| ※鉛筆はHBを使用すること  |                    |   |   |   |   |   |   |   |
| <b>授業科目番号</b><br><table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr><td>003 011 023 031</td></tr> <tr><td>003 011 023 032 041 051 061 071 081 091</td></tr> <tr><td>003 011 023 032 042 052 062 072 082 092</td></tr> <tr><td>003 011 023 032 042 052 062 072 082 092</td></tr> <tr><td>003 011 023 032 042 052 062 072 082 092</td></tr> <tr><td>003 011 023 032 042 052 062 072 082 092</td></tr> <tr><td>003 011 023 032 042 052 062 072 082 092</td></tr> <tr><td>003 011 023 032 042 052 062 072 082 092</td></tr> </table> | 003 011 023 031    | 003 011 023 032 041 051 061 071 081 091 | 003 011 023 032 042 052 062 072 082 092 | 003 011 023 032 042 052 062 072 082 092 | 003 011 023 032 042 052 062 072 082 092 | 003 011 023 032 042 052 062 072 082 092 | 003 011 023 032 042 052 062 072 082 092 | 003 011 023 032 042 052 062 072 082 092 |
| 003 011 023 031  |                    |   |   |   |   |   |   |   |
| 003 011 023 032 041 051 061 071 081 091  |                    |   |   |   |   |   |   |   |
| 003 011 023 032 042 052 062 072 082 092  |                    |   |   |   |   |   |   |   |
| 003 011 023 032 042 052 062 072 082 092  |                    |   |   |   |   |   |   |   |
| 003 011 023 032 042 052 062 072 082 092  |                    |   |   |   |   |   |   |   |
| 003 011 023 032 042 052 062 072 082 092  |                    |   |   |   |   |   |   |   |
| 003 011 023 032 042 052 062 072 082 092  |                    |   |   |   |   |   |   |   |
| 003 011 023 032 042 052 062 072 082 092  |                    |   |   |   |   |   |   |   |
| <b>問 1</b> 01 02 03<br><b>問 2</b> 01 02 03 04 05<br><b>問 3</b> 01 02 03 04<br><b>問 4</b> 01 02 03 04<br><b>問 5</b> 01 02 03 04<br><b>問 6</b> 01 02 03 04<br><b>問 7</b> 01 02 03 04<br><b>問 8</b> 01 02 03 04<br><b>問 9</b> 01 02 03 04<br><b>問 10</b> 01 02 03 04<br><b>問 11</b> 01 02 03 04<br><b>問 12</b> 01 02 03 04<br><b>問 13</b> 01 02 03 04<br><b>問 14</b> 01 02 03 04<br><b>問 15</b> 01 02 03 04<br><b>問 16</b> 01 02 03 04<br><b>問 17</b> 01 02 03 04<br><b>問 18</b> 01 02 03 04<br><b>問 19</b> 01 02 03 04<br><b>問 20</b> 01 02 03 04      |                    |   |   |   |   |   |   |   |
| 大分大学   |                    |   |   |   |   |   |   |   |

《個人データの平均点の例》

0010070.prn

全枚数 117

| 問1 学部           | 教育                                     | 経済       | 工学       | 未記入     |           |        |
|-----------------|--|----------|----------|---------|-----------|--------|
|                 |  |          |          | 63      | 25        | 29     |
| 問1 学科           |  |          |          |         |           |        |
| 教育福祉科学部         | 学校教育                                   | 31       | 情報社会文化   | 8       | 人間福祉科学    | 24     |
| 経済学部            | 経済                                     | 3        | 経営システム   | 2       | 地域システム    | 3      |
|                 | 未記入                                    | 0        |          |         | 未記入       | 0      |
| 工学部             | 生産システム                                 | 10       | 電気電子     | 9       | 知能情報システム  | 4      |
|                 | 建設                                     | 3        | 福祉環境     | 1       | 未記入       | 0      |
| 問2 入学年          | (①2002年②2001年③2000年④1999年⑤1998年以前⑦未記入) | ①<br>53  | ②<br>49  | ③<br>13 | ④<br>0    | ⑤<br>0 |
|                 |  | ⑥<br>未記入 |          | ⑦<br>2  |           |        |
| 問3 シラバス役だった     |  | 3<br>点   | 2<br>点   | 1<br>点  | 0<br>点    |        |
| 問4 授業に出席した      |  |          |          |         |           |        |
| 問5 授業態度に留意した    |  |          |          |         |           |        |
| 問6 意欲的に取り組んだ    |  |          |          |         |           |        |
| 回答数(%)          |  |          |          |         |           | 平均     |
| ＜5 学生の授業への取り組み＞ |  |          |          |         |           |        |
| 問7 授業目標明確       | 29( 24%)                               | 56( 47%) | 21( 17%) | 11( 9%) | 0( 0%)    | 1.88   |
| 問8 内容に興味あり      | 81( 69%)                               | 29( 24%) | 7( 5%)   | 0( 0%)  | 0( 0%)    | 2.63   |
| 問9 量的に適切        | 61( 52%)                               | 41( 35%) | 15( 12%) | 0( 0%)  | 0( 0%)    | 2.39   |
| 問10 全体に分かり易い    | 38( 32%)                               | 58( 49%) | 20( 17%) | 1( 0%)  | 0( 0%)    | 2.13   |
| ＜6 授業内容、授業方法＞   |  |          |          |         |           |        |
| 問11 話し方適切       | 54( 46%)                               | 48( 41%) | 15( 12%) | 0( 0%)  | 0( 0%)    | 2.33   |
| 問12 学生の反応確認     | 67( 57%)                               | 44( 37%) | 6( 5%)   | 0( 0%)  | 0( 0%)    | 2.52   |
| 問13 学生の意見や質問聴取  | 53( 45%)                               | 56( 47%) | 8( 6%)   | 0( 0%)  | 0( 0%)    | 2.38   |
| 問14 教材適切利用      | 44( 37%)                               | 59( 50%) | 13( 11%) | 1( 0%)  | 0( 0%)    | 2.24   |
| 問15 板書使用法、文字適切  | 59( 50%)                               | 50( 42%) | 8( 6%)   | 0( 0%)  | 0( 0%)    | 2.43   |
| 問16 私語、遅刻に適切対処  | 39( 33%)                               | 50( 42%) | 27( 23%) | 1( 0%)  | 0( 0%)    | 2.08   |
| 問17 授業時間の厳守     | 88( 75%)                               | 22( 18%) | 7( 5%)   | 0( 0%)  | 0( 0%)    | 2.69   |
| 問18 授業に真剣取り組み   | 52( 44%)                               | 42( 35%) | 22( 18%) | 1( 0%)  | 0( 0%)    | 2.23   |
| 問19 教員設定設問      | 75( 64%)                               | 31( 26%) | 10( 8%)  | 1( 0%)  | 0( 0%)    | 2.53   |
| 問20 総合的に良かった    | 18( 15%)                               | 55( 47%) | 36( 30%) | 8( 6%)  | 0( 0%)    | 1.70   |
|                 | 71( 60%)                               | 37( 31%) | 8( 6%)   | 0( 0%)  | 1( 0%)    | 2.54   |
|                 | 90( 76%)                               | 25( 21%) | 2( 1%)   | 0( 0%)  | 0( 0%)    | 2.75   |
|                 | 0( 0%)                                 | 2( 1%)   | 0( 0%)   | 0( 0%)  | 115( 98%) | 2.00   |
|                 | 61( 52%)                               | 51( 43%) | 4( 3%)   | 1( 0%)  | 0( 0%)    | 2.47   |

## 《授業改善のためのアンケート—教官用—調査用紙》

### 授業改善のためのアンケート ——教官用——

このアンケートは、今後の組織的ファカルティ・ディベロップメント活動および学生による授業評価のための資料を得るために実施するものです。それらの目的以外に使用されることはありません。

回答は適当と思われる番号を○で囲んでください。複数回答の場合には、当てはまると思われる番号をすべて○で囲んでください。また、回答項目に適当な答えがない場合は、「その他」の記入欄に書いてください。記述を求めている場合は、該当する記入欄に書いてください。

- (1) あなたの所属はどこですか。
- ① 教育福祉科学部  
② 経済学部  
③ 工学部  
④ その他 ( )
- (6) 担当した授業の内容は、学生にとって理解が容易であったと思いますか。
- ① 強くそう思う  
② そう思う  
③ あまりそう思わない  
④ 全くそう思わない
- (2) あなたの現職をお答えください。
- ① 教授  
② 助教授  
③ 専任講師  
④ 非常勤講師 ( )
- (7) 授業の流れをシラバスで表現していますか。
- ① 明確に表現している  
② 表現している  
③ あまり表現していない  
④ 全く表現していない
- (3) 担当した授業に熱心に取り組んでいる学生の割合はどの程度だと思いますか。
- ① 80%以上  
② 60%以上  
③ 50%程度  
④ 40%以下  
⑤ 20%以下
- (8) シラバスの提示は、学生の授業選択に影響していると思いますか。
- ① 強くそう思う  
② そう思う  
③ あまりそう思わない  
④ 全くそう思わない
- (4) 学生の出席状況を成績評価に加味する必要があると思いますか。
- ① 強くそう思う  
② そう思う  
③ あまりそう思わない  
④ 全くそう思わない
- (9) あなたは、予習・復習を課す等の授業時間外の学習指導を行っていますか。
- ① 積極的に行っている  
② 行っている  
③ あまり行っていない  
④ 全く行っていない
- (5) あなたの成績評価についてどのように思いますか。
- ① 非常に厳しい  
② 厳しい  
③ 少し厳しい  
④ 少し甘い  
⑤ 甘い  
⑥ 非常に甘い
- (10) 「学生による授業評価」は教育改善に資すると思いますか。
- ① 強くそう思う  
② そう思う  
③ あまりそう思わない  
④ 全くそう思わない

(11) 今回の「学生による授業評価」は、あなたの授業を受講している学生の意識を知る上で役に立ったと思いますか。

- ① 強くそう思う
- ② そう思う
- ③ あまりそう思わない
- ④ 全くそう思わない

(12) 今回の「学生による授業評価」の結果で、自分の授業の改善点を指摘されたと思いますか。

- ① 強くそう思う
- ② そう思う
- ③ あまりそう思わない
- ④ 全くそう思わない

(13) 今回の「学生による授業評価」以外に、どのような形で学生からのフィードバックを得ていますか。  
(複数回答可)

- ① 全く行っていない
- ② 授業中の学生の態度、反応の程度から類推している
- ③ 学生に直接感想を聞いている
- ④ 試験などの機会に授業についての感想を書かせている
- ⑤ 独自のアンケートを作成して学生の意見・評価を調べている
- ⑥ その他（具体的に記入してください）

（ ）

(15) 設問14で①あるいは②と回答した方にお尋ねします。継続して行う頻度はどの程度が適当とお考えですか。

- ① 毎年
- ② 隔年
- ③ 2～3年に一回
- ④ 数年に一回

(16) 設問14で③あるいは④と回答した方は、その理由をお書きください。

（ ）

(17) 今回の「学生による授業評価」について、ご意見がありましたら、ご自由にお書きください。

（ ）

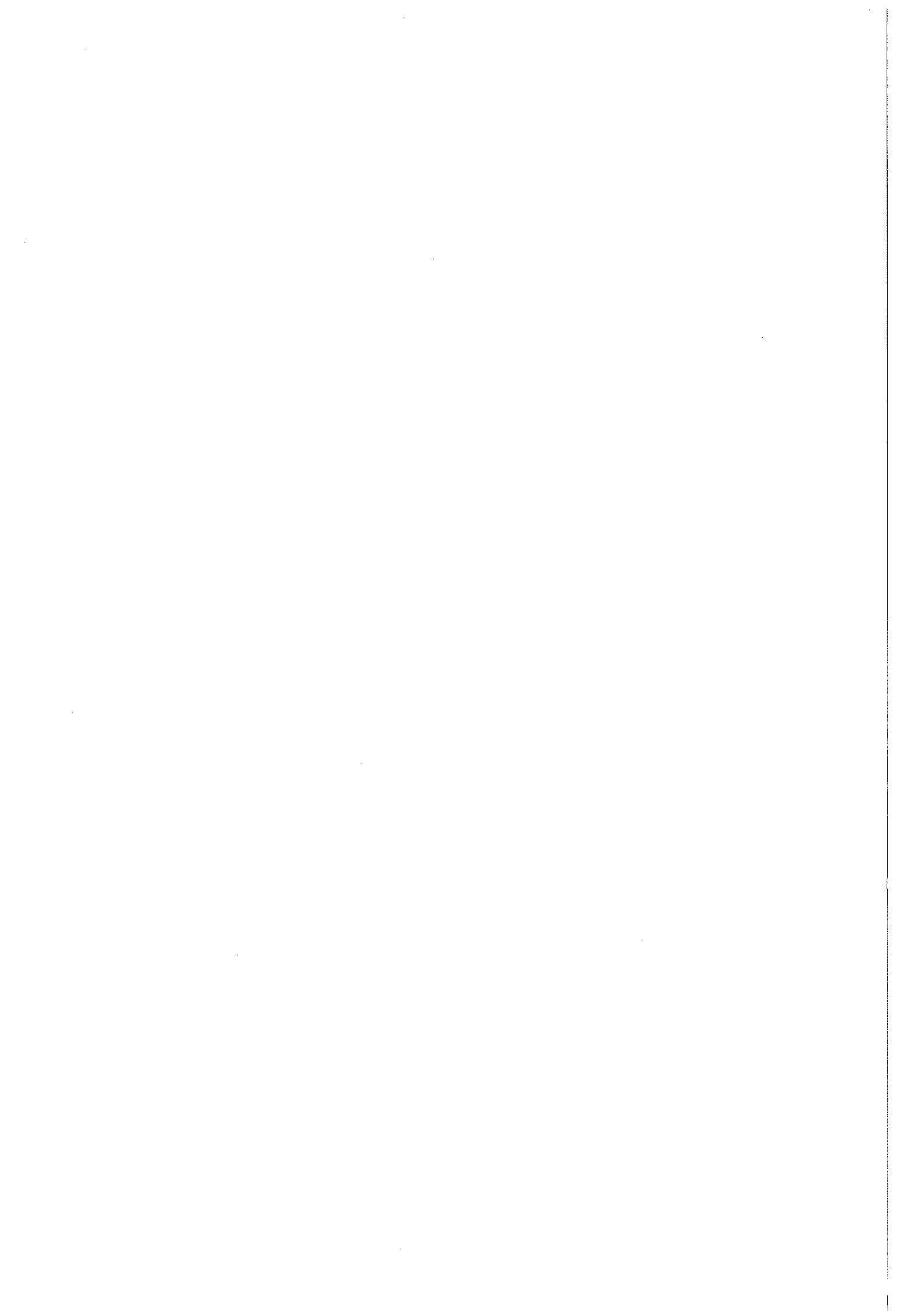
ご協力ありがとうございました。

(14) 授業の改善の努力が学生にどのように受け止められているかを知るために、「学生による授業評価」を継続して行う必要があると思いますか。

- ① 強くそう思う
- ② そう思う
- ③ あまりそう思わない
- ④ 全くそう思わない



## II 広報委員会



## センター広報委員会

### 1. 広報委員会の目的

センターの事業・活動の広報を目的としてセンターニュース、センター報告書を発行する。

### 2. 広報委員

川寄道広（センターチーフ、責任者）

藤田 敦（教育福祉科学部）

中達俊明（経済学部）

井上高教（工学部）

### 3. 活動報告（経過および成果）

#### （1） 第1回広報委員会会議 5月28日（火）（14：40～15：20）

平成14年度の広報委員会における広報活動計画およびセンターニュースNo.2の内容の検討を行った。

##### ① 平成14年度の広報活動計画の検討

平成14年度の広報委員会では以下の3つの活動を行うことを承認した。

ア、創設2年目を迎える大学教育開発支援センターでは、センター長、運営委員および各プロジェクト研究員が一新されることから、平成14年度の本センターの紹介を図るための『センターニュースNo.2』と、業務内容の周知を図るための『センターニュースNo.3』を発行する。

イ、新しい体制になった本センターの広報を図るために、センターのホームページを更新する。

ウ、大学教育開発支援センターの各プロジェクトは単年度による活動であることから、各プロジェクト活動の報告および次年度への課題を内容とした平成14年度の『センター報告書』を年度末に作成する。

##### ② センターニュースの内容の検討

大学教育開発支援センターのセンターニュースNo.2の原案に基づき、新センター長の挨拶、センターの運営について、平成14年度プロジェクト活動について、平成14年度FDワークショップについて等の各項目についての構成や内容について検討した。

豊田センター長には挨拶文の原稿を依頼し、各プロジェクト活動責任者には原案におけるプロジェクト活動のねらいの確認と活動方針（計画）の加筆を依頼することとした。

**(2) センターニュースNo.2 の発行 7月1日（月）**

第1回広報委員会会議での決定事項に基づいて、大学教育開発支援センターを紹介するためのセンターニュースNo.2を発行した。

**(3) ホームページの更新 8月7日（水）**

本年度の大学教育開発支援センターの運営体制および業務内容を広く学内・外に広報するために、センターニュースNo.2の内容を基本としてセンターホームページの内容を更新した。

**(4) 第2回広報委員会会議 8月29日（木）（13:00～15:00）**

8月23日（水）に開催された大学教育開発支援センター運営委員会の決議により、『国立大学法人化に伴う中期目標・中期計画』の本センター関係分の検討および原案の作成を行った。

平成13年度のセンター報告書、センターニュースNo.2、センター施設紹介文等の資料に基づいて、「FD支援プロジェクト」「メディア教育プロジェクト」「学生による授業評価プロジェクト」の活動に関わる本センター業務内容の中期目標・中期計画原案を作成した。

なお、9月4日の教務協議会において、教務協議会が作成する中期目標・中期計画の一環として、センターに関する中期目標・中期計画を作成することが了承されたことから、広報委員会で作成した原案は9月13日（金）に加筆・修正された後、センター運営委員による持ち回りの検討が行われた。そして9月20日（金）に再度修正の上、教務協議会に報告された。

**(5) センターニュースNo.3 の発行 12月9日（月）**

本センターの業務内容の広報を目的として、平成14年度10月までのセンタープロジェクト活動の経過報告および11月以降の活動計画を内容とするセンターニュースNo.3を作成した。

各プロジェクトの責任者に10月末日を期限として原稿を依頼し、「メディア教育プロジェクト」「FD支援プロジェクト」「学生による授業評価プロジェクト」「広報委員会」の各プロジェクト活動に関するニュース原案を作成した。11月に広報委員による持ち回りの検討を行い、原案を修正した。印刷校正を経て、12月初旬にセンターニュースNo.3を発行した。

**(6) 『大学教育研究センター等の現状と課題』の紹介文の作成 12月19日（木）**

新潟大学大学教育開発研究センターの依頼を受け、『大学教育研究センター等の現状と課題』報告書に掲載される「大分大学大学教育開発支援センターについて」の原稿を作成し、

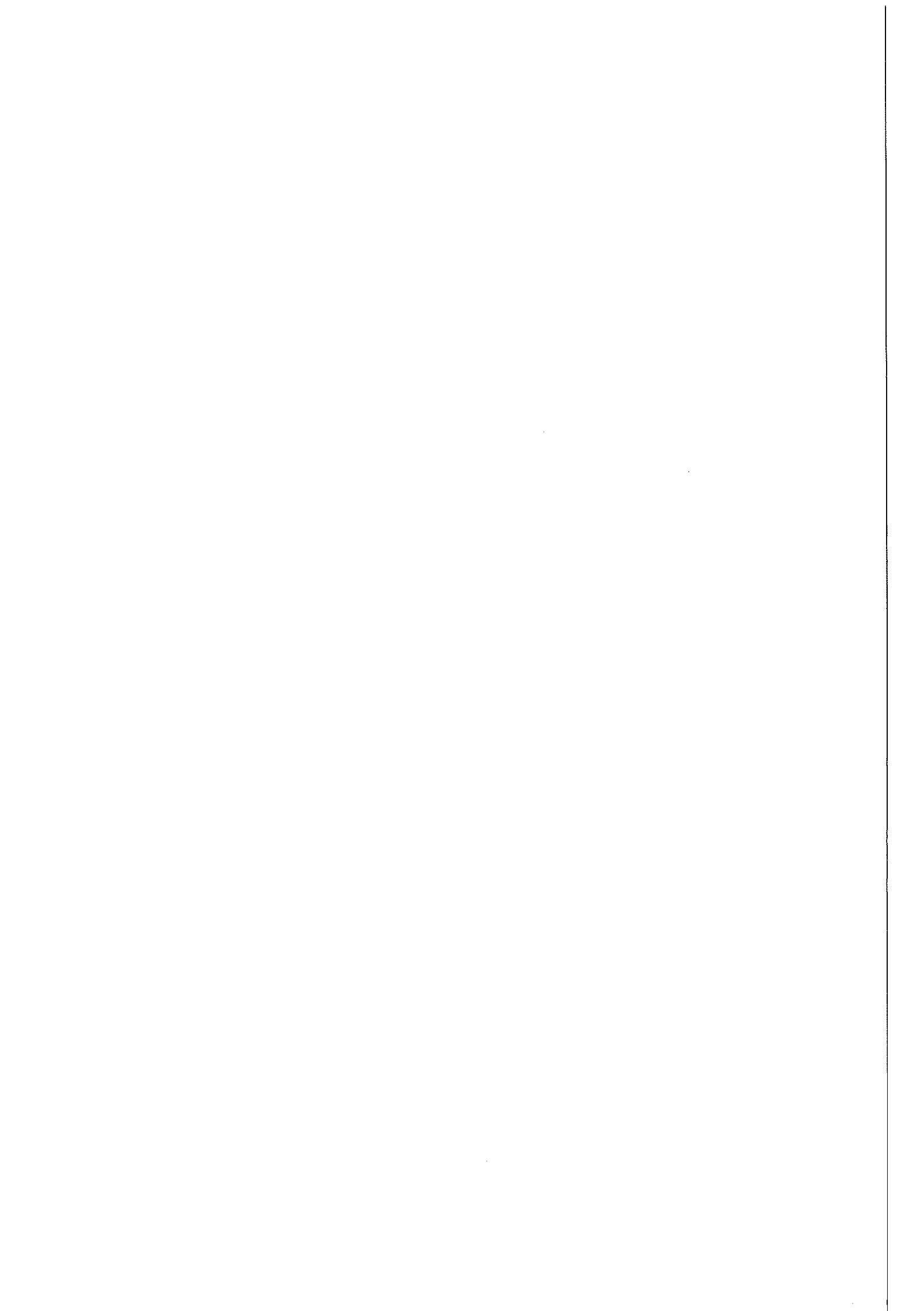
送付した。本センターの組織・運営体制、活動概要、平成 14 年度の活動経過および今後の課題について A4 用紙 5 枚にまとめ、本センターの活動状況を紹介した。

#### (7) センター報告書の作成 平成 15 年 3 月

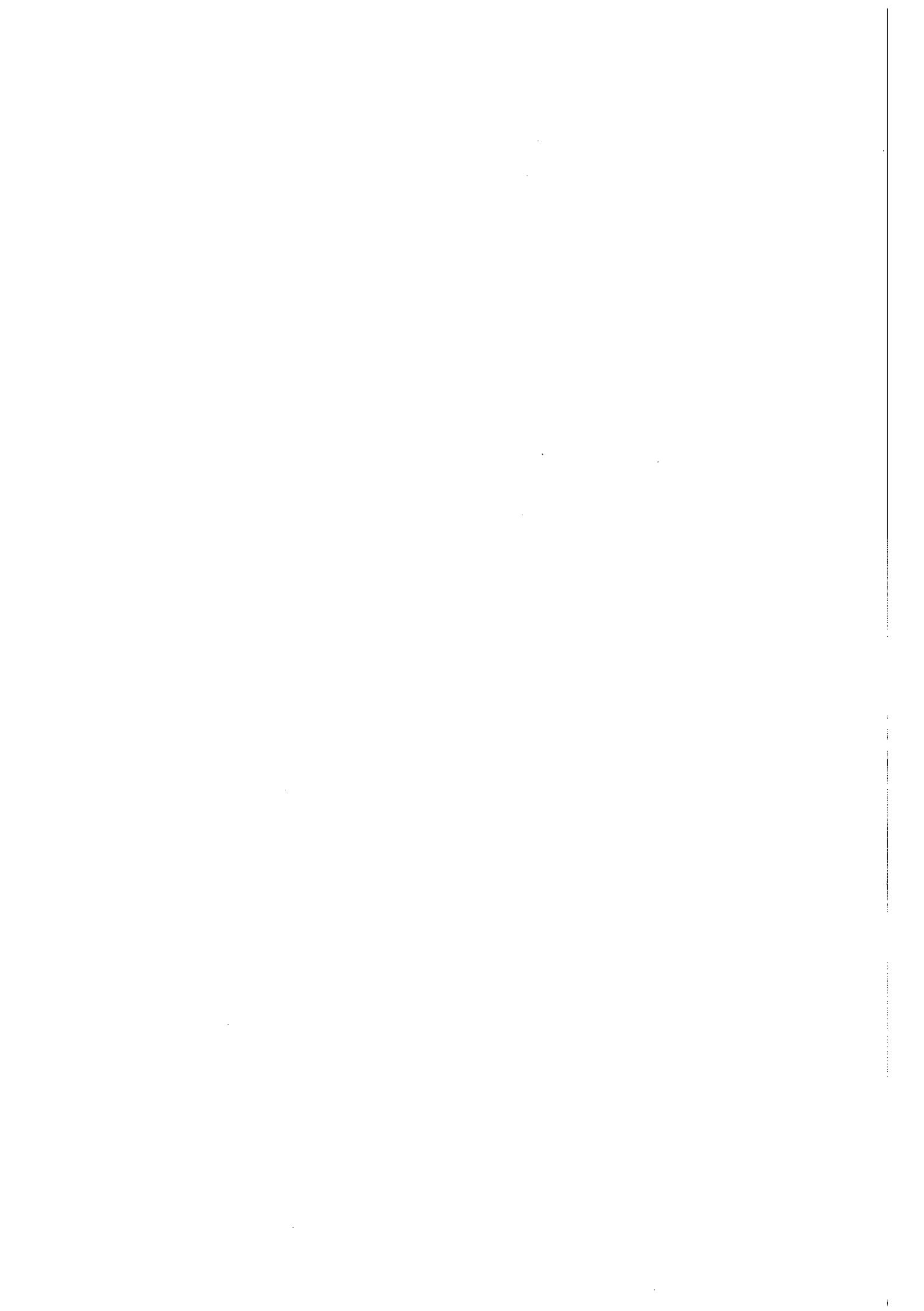
センターの概要、センター運営委員会の議事報告、各プロジェクトの活動報告、センター規則、センター運営委員会規程等を内容とした『平成 14 年度大分大学大学教育開発支援センター報告書』を作成する。平成 15 年 1 月に各プロジェクト活動責任者に活動報告の執筆を依頼した。センター報告書の発行は 3 月を予定している。

#### 4 今後の広報活動

大学教育開発支援センターは開設されて 2 年目のセンターするために、より広く、より深く本センターの業務内容を理解してもらえるよう広報活動を推進する。センターニュースおよびホームページの一層の充実を図る必要がある。



### III 資 料



## 平成14年度第1回大学教育開発支援センター運営委員会議事概要

日 時 平成14年4月17日（水）13：30～14：30

場 所 教養教育棟会議室

出席者 豊田委員長、川寄次長、橋口委員、藤田委員、黒川委員、中達委員、市原委員、行天委員

列席者 石井課長、秋山課長補佐、渡辺専門員、後藤専門職員

- 資 料
1. 平成14年度大学教育開発支援センター運営委員会委員名簿
  2. 大分大学大学教育開発支援センター規則
  3. 大分大学大学教育開発支援センター運営委員会規程
  4. 支援要請書（2葉）
  5. 経費要求書（センター運営費）
  6. 経費要求書（FDワークショップ・授業評価）
  7. 経費要求書（メディア教育）

議事に先立ち、各委員及び列席者から自己紹介があった。

### 議 題 1. プロジェクト委員の選出について

委員長から資料1の名簿について説明したうえ、以下のそれぞれの委員及び広報委員を決定した。

- ①教養教育見直しプロジェクト、②メディア教育プロジェクト、③FD支援プロジェクト、  
④学生による授業評価プロジェクト、

ただし、工学部委員が1名欠席であったため、工学部の③FD支援プロジェクト委員と広報委員については、今週中に決定のうえ連絡願うこととした。

### 2. センターの運営について

委員長から本センターの本年度の運営について説明し、資料4の支援要請書に基づき、4つのプロジェクトを立て、支援業務を遂行することとした。

委員から、今後のFDワークショップについては、参加しやすくするために日帰りや学内での開催も視野に入れてもよいのではないかとの意見が出され、委員長から現段階では昨年どおり1泊2日としているが、実施段階において弾力的な運用は可能であるとの説明があった。

### 3. 経費の要求について

委員長から平成13年度センター運営経費の決算について説明し、了承した。さらに平成14年度分の経費の要求について、資料5～7のとおりセンター運営費、及びFDワークショップ・授業評価、メディア教育、の各事業の要求書の提出を了承した。

### 4. 大学教育学会への参加について

大学教育学会第24回大会（平成14年7月13日～14日・宮城県仙台市・テーマ「総合的な学習」と大学教育）を案内し、協議の結果、市原委員が参加することとした。

以上

## 平成14年度第2回大学教育開発支援センター運営委員会議事概要

日 時 平成14年8月23日（木）16：00～17：10

場 所 教養教育棟会議室

出席者 豊田委員長、川寄次長、橋口、藤田、中達、井上、行天各委員

列席者 渡辺専門員、後藤専門職員

資 料 1. 国立大学法人化に伴う中期目標の作成について

2. 本センターの業務内容・目的

3. 本センター規則

4. 本運営委員会規程

5. 山口大学大学教育センター概要・実施体制図

議 題 1. 国立大学法人化に伴う中期目標・中期計画について

委員長から、別添資料により、国立大学法人化に伴う中期目標・中期計画を策定する必要がある旨説明があり、本センターとしては別添資料中（4）教育内容及び教育方法に関する目標と計画、（7）教育の質の向上のためのシステムに関する目標と計画、の2点について中期計画を策定する必要があるが、本センターとしては他の機関からの依頼に基づいて機能する機関であることから目標設定にはそぐわないとの意見もあったものの、目標の設定が可能な項目もあり、その項目についてのみ目標を設定することとなった。

計画のとりまとめは広報委員が行い、センターニュースに掲載した内容をもとにして原案を作成することとした。

さらに、8月中にとりまとめた案を、9月初旬に運営委員会で審議したうえ、9月中旬に本センターの中期目標・中期計画を決定することとした。

以 上

## 平成14年度第3回大学教育開発支援センター運営委員会議事概要

日 時 平成15年3月7日（金）13：30～14：40  
場 所 教養教育棟会議室  
出席者 豊田委員長、川嶋次長、橋口、黒川、中達、市原、井上、行天各委員  
列席者 渡辺専門員、後藤専門職員

資 料 1. 本運営委員会規程  
2. 教務協議会委員長からの支援要請書  
3. 教養教育協議会委員長からの支援要請書  
配布資料 各プロジェクト概要報告書（案）

議 題 1. 平成14年度プロジェクトについて  
川嶋次長から、本年度に推進してきた、①教養教育見直しプロジェクト、  
②メディア教育プロジェクト、③学生による授業評価プロジェクトの概要を説明  
し、④FD支援プロジェクトについては、プロジェクトの責任者である市原委員  
から概要を説明した。  
なかでも、②メディア教育プロジェクトについては、SCSの広報の工夫  
が必要なこと、③学生による授業評価プロジェクトについては、その成果を生か  
す方法としてのワークショップの開催や、FD合宿研修での検討等が課題であり、  
それらを含めて教務協議会で検討する必要性を確認した。  
併せて川嶋次長から広報委員会の活動を報告した。

2. 平成15年度プロジェクトについて  
委員長から、14年度に推進した4つのプロジェクトを踏まえ、教務協議会及  
び教養教育協議会からの依頼に基づき、15年度のプロジェクトを決定したい旨  
提案があり、以下のとおり決定した。  
併せてプロジェクト研究員の推薦を各学部長等に依頼することとした。  
プロジェクトは以下のとおり。  
①教養教育見直しプロジェクト  
②メディア教育プロジェクト  
③FD支援プロジェクト  
④学生による授業評価プロジェクト  
なお、③のFD支援プロジェクトについては、本日の教務協議会で別添資料の  
とおり決定したことの報告と共に、市原委員からFDワークショップのうち、企  
画公募による教育・授業の内容・方法研究について説明があり、これを了解した。  
また、予算要求の期限があることから、早急に募集を行うこととした。

報告事項

1. センターナ次長の選任について

委員長から、川崎センターナ次長の任期が本年3月31日までとなっており、次期センターナ次長の選任は、センター規則第6条により、大分大学学内共同教育研究施設等管理委員会の推薦に基づき学長が任命することとなっていること、及び教育福祉科学部の黒川助教授が推薦されていることを報告した。

以上



## 大分大学大学教育開発支援センター規則

平成13年2月21日制定

### (設置)

第1条 大分大学（以下「本学」という。）に学内共同教育研究施設として、大分大学大学教育開発支援センター（以下「センター」という。）を置く。

### (目的)

第2条 センターは、本学の理念・目標に基づき、本学における教育活動の在り方を総合的に探求し、学内諸組織や学外関係機関と連携しながら、高度で個性的な教育の実現を支援することを目的とする。

### (業務)

第3条 センターは、次の各号に掲げる業務を行う。

- 一 学士課程教育及び大学院教育の在り方に関する調査・研究
  - 二 高校教育と学士課程教育の接続に関する調査・研究
  - 三 学士課程と大学院課程のカリキュラム接続に関する調査・研究
  - 四 國際化、情報化に対応した教育に関する調査・研究
  - 五 授業方法の改善に関する調査・研究
  - 六 メディア教育に関する調査・研究
  - 七 入学生の学力に関する調査・研究
  - 八 教育業績評価に関する調査・研究
  - 九 学士課程教育に係る他大学との連携・協力
  - 十 その他教育に関する調査・研究
- 2 センターは、前項各号の業務により得られた調査・研究結果を学内諸組織及び施設へ提供し、当該施設等を支援する。

### (職員)

第4条 センターに次に掲げる職員を置く。

- 一 センター長
  - 二 センターサ次長
  - 三 研究員
  - 四 その他必要な職員
- (センター長)

第5条 センター長は、センターの業務を掌理する。

- 2 センター長は、学長特別補佐をもって充てる。  
(センターサ次長)

第6条 センターサ次長は、センター長を補佐し、センター長に事故あるときはその職務を代行する。

- 2 センターサ次長は、本学の教官のうちから、第8条の委員会の推薦に基づき、学長が任命する。
- 3 センターサ次長の任期は2年とし、再任を妨げない。ただし、センターサ次長に欠員が生じた場合の後任者の任期は、前任者の残任期間とする。

### (研究員)

第7条 研究員は、センターに置かれるプロジェクトの調査及び研究等を行う。

- 2 研究員は、学長が任命する。

### (管理委員会)

第8条 センターに関する管理運営の基本方針その他重要な事項を審議するため、大分大学学内共同教育研究施設等管理委員会（以下「管理委員会」という。）を置く。

- 2 管理委員会に関する必要な事項は、別に定める。

(運営委員会)

第9条 センターの円滑な運営を図るため、大分大学大学教育開発支援センター運営委員会（以下「運営委員会」という。）を置く。

2 運営委員会に関する必要な事項は、別に定める。

(事務)

第10条 センターに関する事務は、学務課において行う。

(雑則)

第11条 この規則に定めるもののほか、センターに関し必要な事項は別に定める。

附 則（平成13年規則第2号）

この規則は、平成13年2月21日から施行する。

# 大分大学大学教育開発支援センター運営委員会規程

平成13年2月21日制定

## (趣旨)

第1条 この規程は、大分大学大学教育開発支援センター規則第9条第2項の規定に基づき、大分大学大学教育開発支援センター運営委員会（以下「委員会」という。）に関し、必要な事項を定める。

## (審議事項)

第2条 委員会は、大分大学大学教育開発支援センター（以下「センター」という。）の円滑な運営を図るため、次の各号に掲げる事項を審議する。

- 一 センターの運営に関すること。
- 二 センターの業務に関すること。
- 三 その他センターに関する必要な事項

## (組織)

第3条 委員会は、次の各号に掲げる委員をもって組織する。

- 一 センター長
- 二 センター次長
- 三 生涯学習教育研究センター専任教員のうちから1人
- 四 各学部から選出された教員 各2人

2 前項第3号及び第4号の委員は、学長が任命する。

3 前項の委員の任期は2年とし、再任を妨げない。ただし、委員が欠員となった場合の後任者の任期は、前任者の残任期間とする。

## (委員長)

第4条 委員会に委員長を置き、センター長をもって充てる。

- 2 委員長は、委員会を招集し、その議長となる。
- 3 委員長に事故があるときは、あらかじめ委員長の指名した委員がその職務を代行する。

## (会議)

第5条 委員会は、委員の過半数の出席がなければ議事を開くことができない。

- 2 議事は、出席した委員の過半数をもって決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

## (委員以外の者の出席)

第6条 委員会が必要と認めたときは、委員以外の者を会議に出席させ意見を聞くことができる。

## (事務)

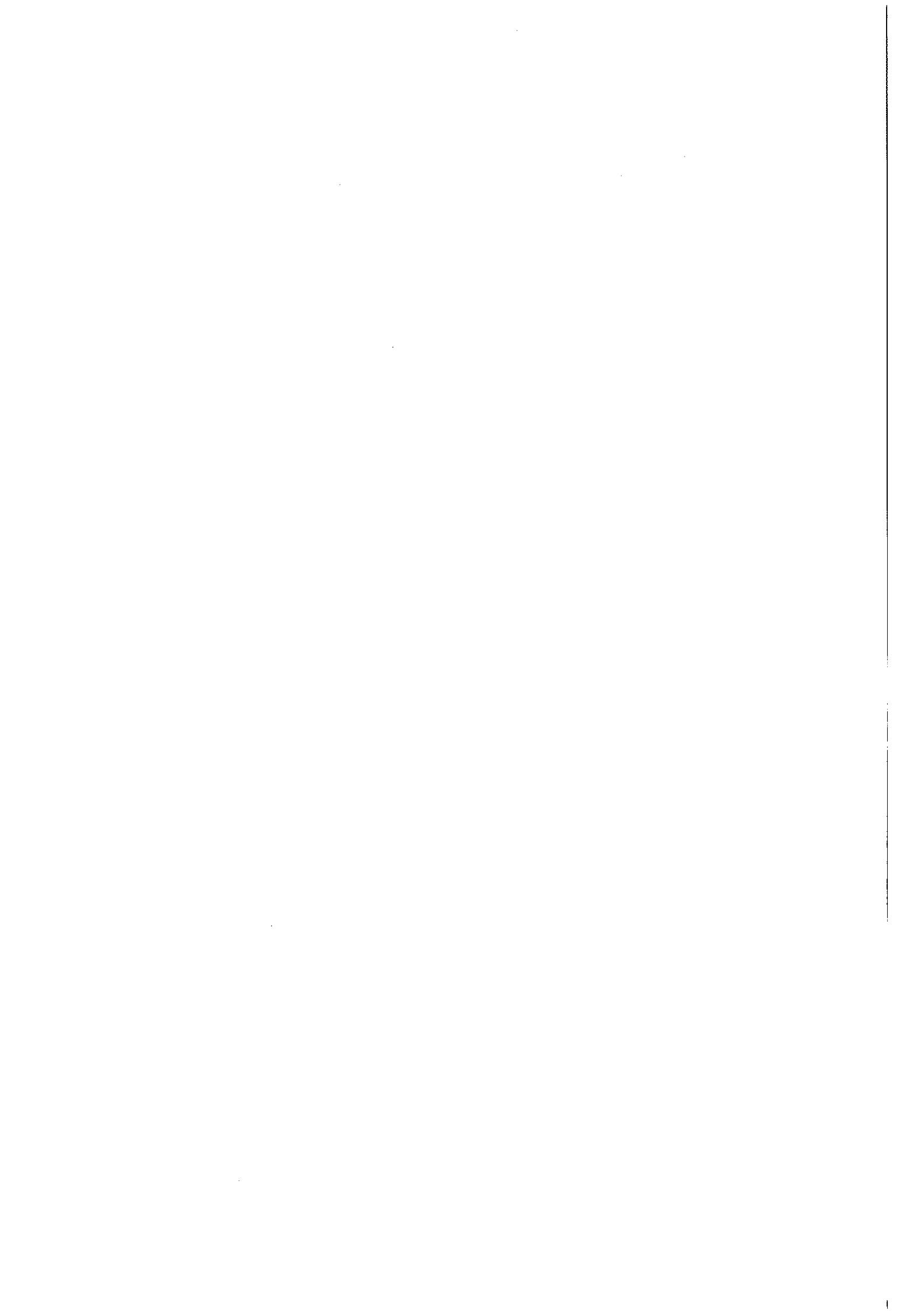
第7条 委員会の事務は、学務課において処理する。

## (雑則)

第8条 この規程に定めるもののほか、運営委員会の運営に関する必要な事項は、委員長が別に定める。

## 附 則（平成13年規程第1号）

- 1 この規程は、平成13年2月21日から施行する。
- 2 この規程の施行の後、最初に任命される第3条第2項の委員の任期は、同条第3項の規定にかかわらず、平成14年3月31日までとする。



## 大学教育開発支援センター運営委員名簿

センター長 豊田 寛三 (学長特別補佐・教育福祉科学部)  
センター次長 川喜 道広 (教育福祉科学部)  
委員 橋口 泰宣 (生涯学習教育研究センター専任教官)  
委員 藤田 敦 (教育福祉科学部)  
委員 黒川 熱 (教育福祉科学部)  
委員 中達 俊明 (経済学部)  
委員 市原 宏一 (経済学部)  
委員 井上 高教 (工学部)  
委員 行天 啓二 (工学部)

平成 14 年度  
大分大学大学教育開発支援センター報告書

発 行 平成 15 年 3 月  
編 集 大分大学大学教育開発支援センター  
〒870-1192 大分市大字旦野原 700 番地  
Tel/Fax (097) 554-6851  
E-mail:support@cc.oita-u.ac.jp  
<http://www.support.susi.oita-u.ac.jp>